

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-240548

(43)公開日 平成6年(1994)8月30日

(51)Int.Cl.⁵

D 0 4 B 1/24

A 4 1 D 27/20

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Q

審査請求 有 請求項の数 8 F D (全 49 頁)

(21)出願番号

特願平3-106682

(22)出願日

平成3年(1991)4月10日

(71)出願人 000151221

株式会社島精機製作所

和歌山県和歌山市坂田85番地

(72)発明者 三本 重信

和歌山県和歌山市田尻255の25

(72)発明者 奥野 昌生

和歌山県和歌山市東高松2丁目4番5号

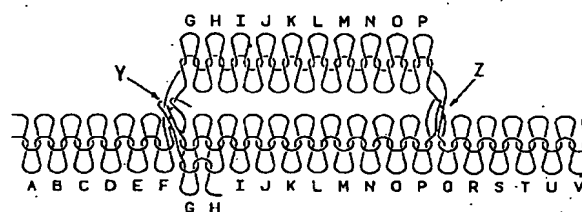
(74)代理人 弁理士 杉本 勝徳 (外1名)

(54)【発明の名称】 貼付け型ポケットを有する編地及びその編成方法

(57)【要約】

【目的】 カーディガン等のニット製品におけるベース編地の編成と同時に貼付け形ポケットを盛り上がった状態に編成できるようにすることを目的とするものである。

【構成】 まず、ベース編地を編成してゆき、貼付け形ポケットを形成する位置になると、ベース編地を編成しているループを分岐し、ポケットの底部を形成し、ポケットのストレート部分ではその両側縁部がベース編地に連結された状態でしかも、ポケット編地部分で隠れるベース編地の編み組織をその他の編み組織と同じか、または／および表編み組織にする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ベース編地部とポケット編地部とを連続して編成するにあたり、ベース編地部から分岐してポケット部分の編地の編み出し部を形成し、該編み出し部から編立てられるポケット部分の編地の側方部分をベース編地部に連結した状態でベース編地部とポケット部分の編地とを編成することにより貼付け型ポケットを形成するとともに、該ポケットが形成される部分のベース編地部の編み組織を他のベース編地部の編み組織と同じ編み組織または／及び表編み組織で編成するようにしたことを特徴とする貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【請求項2】 ポケット側方部のベース編地部とポケット編地部との連結をタック組織で形成したことを特徴とする請求項1に記載の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【請求項3】 ポケット側方部のベース編地部とポケット編地部との連結を編糸同士の交叉により形成したことを特徴とする請求項1に記載の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【請求項4】 ポケット側方部のベース編地部とポケット編地部との連結を編糸とループとの交叉により形成したことを特徴とする請求項1に記載の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【請求項5】 ポケット側方部のベース編地部とポケット編地部との連結をニットループにより形成したことを特徴とする請求項1に記載の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法に記載の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【請求項6】 ベース編地部及びポケット編地部の少なくとも一方が複数のキャリアで編成するようにしたことを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、請求項4及び請求項5の何れか1項に記載された貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【請求項7】 ベース編地部及びポケット編地部の少なくとも一方がインターシャ編みで形成したことを特徴とする請求項6に記載された貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【請求項8】 ベース編地部から分岐された編み出し部からポケット編地部分を編成するとともに、ポケット部分の編地の側方部分をベース編地部に連結した状態でベース編地部とポケット部分の編地とを編成して貼付け型ポケットを形成してなる貼付け型ポケットを有する編地。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、セータやカーディガン等のニット衣料の、例えば身頃部分を編成する時に貼付け型ポケットを同時に一体にできるようにする貼付け型ポケットを有する編地の編成方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般にニット衣料の身頃部分にポケット

を形成する場合、ポケットの形状の編地を作成し、この編地を所望する場所に縫着してポケットを形成するようにしている。

【0003】ところが、こうしたものではポケット用の編地の周囲をニット衣料の身頃部分に人手で縫着しており、ポケット用の編地はその周縁部分が巻き込み易く取り扱いが面倒であることや、この編地は簡単に変形し易いことから、縫着作業に多大の手間を要し、その生産性が極めて悪いと言う問題があった。特に、編地が柄物で有る場合にはその柄合わせが難しく、上記問題が顕著に現れる。

【0004】そこで本出願人は、横編機で身頃編地を編成してゆき、ポケットを形成する位置になると、ポケットを形成する部分の編針に掛止しているループから分岐してポケットの底部を形成し、このポケットの底部から編出されたポケットの表地の側縁部が表地に編組された状態で編立てられたポケットの表部分と、ポケットの上部位置に表部分から一連に形成されたリブ編み部分とを有してなることを特徴とした貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を先に提案した。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 ニット衣料におけるポケットの開口部はデザインや機能上、リブ編み等の補強が必要であるが、本出願人が先に提案したものでは、ポケット編地部を有する編地を編成する場合、ポケット編地の外側を表目組織、ポケット編地の内側に隠れる部分のベース編地部は裏目組織に編成されていた。

【0006】そのために、完成された貼付け型ポケットを有する編地のベース編地部にはポケットの表面の編地に隠れる部分のベース編地部は裏目組織に入れ替わってしまうことから、これを用いて生産された衣類は、その着用時に、ポケットの上部開口から裏目組織に入れ替わった部分が見えるために見栄えが悪く、商品価値を低減させてしまうという問題があった。

【0007】更に、先に提案したもののように、ポケットの表面の編地に隠れる部分のベース編地部が裏目組織に入れ替わってしまう場合、裏目組織部分は窪んだ形状に成るため、この表面に形成されるポケットの表面の編地がこの窪んだ部分に入り込むことから貼付け型ポケット特有の盛り上がり欠けてしまうという問題があった。

【0008】本発明は上記問題点を鑑み提案されたもので、生産性を損なうことなく、ボリュウム感に富んだ貼付け型ポケットを設けた編地の編成方法を提供出来るようにすることを目的とするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために本発明にかかる貼付け型ポケットを有する編地の編成方法は、上下に各一對の針床を有する横編機を使って、ベース編地部とポケット編地部とを連続して編成するに

あたり、ベース編地部から分岐してポケット部分の編地の編み出し部を形成し、該編み出し部から編立てられるポケット部分の編地の側方部分をベース編地部に連結した状態でベース編地部とポケット部分の編地とを編成することにより貼付け型ポケットを形成するとともに、該ポケット部分の編地の表面の編み組織と、これが形成される部分のベース編地部の表面組織の編み組織とを同じ編み組織で編成するようにしたことを特徴とするものである。

【0010】

【作用】横編機でセータ又はカーディガン等の身頃部分の編地（ベース編地部）をその下端部から編成して行く。そして、この身頃部分の編地がポケットを形成する所定の位置になると、ポケットの幅に相当する部分の編針に掛止しているループを分岐し、ここにポケット編地部分の編み出し部が形成される。次に、身頃部分の編地と、編み出し部からは両横部分が身頃部分の編地に連結された状態のポケット部分の編地とが夫々編立てられて行き、ポケットは袋状に形成される。

【0011】この時、例えば横編機が前後に対峙させた針床を上下に夫々配設してなるものでは、上、又は下の何れか一方の針床で身頃部分の編地を編成する場合、編み出し部から編成されるポケット編地部分を他方の針床で編成すると、ポケット部分の編地が形成される部分のベース編地部の表面の編み組織を他のベース編地部の表面の編み組織と同じ編み組織で編成することができるのである。

【0012】また、横編機が前後に対峙させた一对の針床で形成されているもの場合には身頃部分の編地がポケットを形成する所定の位置になると、身頃部分の編地を一端一方の針床の編針に1つ置きに移し、空針をポケット編地部分を編成する編針に利用することにより、身頃部分の編地とポケット編地部分の表面組織を同じ組織にすることができるのである。

【0013】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。

【実施例1】この実施例は、図1に示すようなカーディガンの前身頃編地部分1に貼付型ポケット2を形成する場合であって、用いられる編機は、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機が使用される。

【0014】図2は図1のX-X線断面図、図3は図4以降に示すコースに使用する記号の説明を夫々示す。そして、図4以降に示すコースの左側のF Uは前方で上側に配設された針床、F Dは前方で下側に配設された針床、B Uは後方で上側に配設された針床、B Dは後方で下側に配設された針床を夫々示し、コースの右側に記した左右の矢印はループの編成方向、即ち、フィーダーの

進行方向を夫々示す。

【0015】先ず、図4でフィーダー3が右方に移動され、図5でフィーダー3が左方に移動操作される時に、前方で下側に配設された針床F Dの編針A～Vに給糸され、夫々のコースでループが形成される。この図4及び図5の作動が繰り返されて前身頃編地部分7がその下部から上に向かって編成されてゆく。そして、図6のポケット2の底部を形成する位置になると、前方で下側に配設された針床F Dの編針J～Mに掛止しているループを後方で下側に配設された針床B Dの編針J～Mに割って掛止する所謂“割り増やし”が行われる。図7で針床F Dの編針J～Mにフィーダー5から給糸されてループが形成された後、図8で針床F Dの編針A～I及び後方で下側に配設された針床B Dの編針J～Mにフィーダー3から給糸されてループが形成される。

【0016】次に、図9でフィーダー3及びフィーダー5が左方に移動されてそれぞれの給糸がクロスした状態にされた後、図10でフィーダー3が右方に移動され、次いで図11でフィーダー5が右方に編成される。図12では前方で下側に配設された針床F Dの編針I及びNに掛止されているループが後方で下側に配設された針床B Dの編針I及びNに割って掛止する“割り増やし”が行われ、図13で針床F Dの編針N～Iにフィーダー5からの給糸によりループが形成された後、図14で針床B Dの編針I～Nに掛止しているループが前方で上側に配設された針床F Uの編針i～nに移される。

【0017】図15でフィーダー3の左方への移動により針床F Dの編針V～O及び針床F Uの編針n～iに給糸されてループが形成された後、図16で針床F Uの編針i～nに掛止されているループが針床B Dの編針I～Nに移される。然る後、図17で先ずフィーダー3を図15の状態から右方に移動させた後、フィーダー5を図13の状態から右方に移動させてそれぞれの給糸がクロスした状態にし、図18でフィーダー3を左方に移動させて針床F Dの編針H～Aにループを形成し、図19でフィーダー5を左方に移動させる。

【0018】図20で前方で下側に配設された針床F Dの編針H及びOに掛止されているループが後方で下側に配設された針床B Dの編針H及びOに割って掛止する“割り増やし”が行われ、図21で針床F Dの編針H～Oにフィーダー5からの給糸によりループが形成された後、図22で針床B Dの編針H～Oに掛止しているループが針床F Uの編針h～oに移される。図23ではフィーダー3の左方への移動により針床F Dの編針A～G及び針床F Uの編針h～oに給糸されてループが形成された後、図24で針床F Uの編針h～oに掛止されているループが針床B Dの編針H～Oに移される。

【0019】こうした図9～図24の各コースを適宜繰り返すことにより、ポケット2の幅が所定の幅H（例えば図25に示す針床B Dの編針G～P）に拡張される

10

20

30

40

50

と、図25で先ずフィーダー3を図23の状態から左方に移動させ、フィーダー5を図21の状態から左方に移動させた後、それぞれの給糸がクロスした状態にし、図26でフィーダー3を右方に移動させて針床FDの編針Q～Vにループを形成し、図27でフィーダー5を右方に移動させる。図28ではフィーダー5を左方に移動させ針床FDの編針P～Gに給糸し、ループを形成した後、図29で針床BDの編針H～Oのループを針床FUの編針g～pに移し、図30でこの針床FUの編針g～pにフィーダー3で給糸してループを形成する。

【0020】針床FUの編針g～pにフィーダー3からの給糸で形成されたループは、図31で針床BDの編針G～Pに移された後、図32でフィーダー3を図30の状態から右方に移動させた後、フィーダー5を図28の状態から右方に移動させてそれぞれの給糸がクロスした状態にし、図33でフィーダー3を左方に移動させて針床FDの編針F～Aに給糸してループを形成し、図34でフィーダー5を左方に移動させる。図35ではフィーダー5を右方に移動させ針床FDの編針G～Pに給糸してループを形成し、図36で針床BDの編針G～Pのループを針床FUの編針g～pに移し、この針床FUの編針g～pに図37でフィーダー3より給糸し、ループを形成する。

【0021】図38で針床FUの編針g～pに掛止されているループを針床BDの編針G～Pに移し、図39でフィーダー3を図37の状態から左方に移動させた後、フィーダー5を図35の状態から左方に移動させてそれぞれの給糸がクロスした状態にし、図40でフィーダー3を右方に移動させて針床FDの編針Q～Vに給糸してループを形成し、図41でフィーダー5を右方に移動させる。図42ではフィーダー5を左方に移動させ針床FDの編針P～Gに給糸してループを形成し、図43で針床BDの編針G～Pのループを針床FUの編針g～pに移し、図44でこの針床FUの編針g～pにフィーダー3から給糸し、ループを形成する。

【0022】図45で針床FUの編針g～pに掛止されているループを針床BDの編針G～Pに移す。この図32から図45までの編成コースを適宜繰り返すことによりポケットのストレート部分が編成されるのであるが、このポケットのストレート部分の両側縁部分は図2のY及びZで示すように前身頃編地部分7に編糸同士が交差した状態で連結されるのである。

【0023】図46ではフィーダー3を図44の状態から右方に移動させた後、フィーダー5を図42の状態から右方に移動させてそれぞれの給糸がクロスした状態にし、図47でフィーダー5を左方に出すとともに、図48でフィーダー3も針床FDの編針F～Aに給糸してループを形成しながら左方に出す。次に、図49でポケット2の口8部分を補強するために補強糸を供給するフィーダー6を入れて針床FDの編針G～Pに補強糸でル

ープを形成する。尚、この図49の補強ループは省略することもできる。

【0024】図50乃至図67まではポケット2の口8のゴム編地を形成するためのコースを示すものである。即ち、図50で図49の針床BDの編針G～Pのループを針床FUの編針g～pに移した後、図51で針床FDの編針A～F及び針床FUの編針g～pにフィーダー3で給糸してループを形成する。図52では針床FUの編針g～pのループを針床BDの編針G～Pに移し、図53でフィーダー3を図51の状態から左方に移動させた後、フィーダー6を図49の状態から左方に移動させて各フィーダーからの給糸がクロスする状態にする。

【0025】図54ではフィーダー3を右方に移動させ、針床FDの編針Q～Vに給糸してループを形成し、図55でフィーダー6を右方に移動させた後、図56でポケット部分の編地を編成する針床FDの編針G～Pの一つ置き編針H、J、L、N、Pのループを針床BUの編針h、j、l、n、pに移し、図57で針床FDに残された編針G、I、K、M、Oと針床BUの編針h、j、l、n、pとにわたってフィーダー6から補強糸が給糸されリブ編みのループが形成される。図58で針床BUの編針h、j、l、n、pのループを針床FDの編針H、J、L、N、Pに移し、図59で針床BDの編針G～Pのループを針床FUの編針g～pに移した後、図60で針床FUの編針g～pにフィーダー6で補強糸を供給してループを形成する。

【0026】図61では針床FUの編針g～pに掛止されているループを針床BDの編針G～Pに移し、図62でフィーダー3を図60の状態から右方に移動させた後、フィーダー6を図57の状態から右方に移動させ各フィーダーからの給糸がクロスした状態にし、図63で針床FDの編針A～Fにフィーダー3から給糸し、ループを形成する。図64でフィーダー6を図63の状態から左方に移動させ、図65で針床FDの編針G～Pの一つ置き編針H、J、L、N、Pのループを針床BUの編針h、j、n、pに移した後、図57で針床FDに残された編針G、I、K、M、Oと針床BUの編針h、j、l、n、pとにわたってフィーダー6から補強糸が給糸されリブ編みのループを形成し、図67で針床BDの編針G～Pのループを針床FUの編針g～pに移す。この図50から図67のコースが適宜繰り返されることによりポケット2の口部に所定長さのリブ編みが形成されるのである。こうして形成されたポケット2の口部のリブ編みもその両端縁部分は図58、図67で示すように前身頃部分の編地に編糸同士が絡んで連結された状態に編成されるのである。

【0027】図68以降はポケット2の口部の端部を処理するコースを示し、図68で針床BDの編針G～Pのループを針床FUの編針g～pに移した後、図69で針床FDの編針A～F及び針床FUの編針g～pにフィー

10

20

30

40

50

ダー3から給糸してループを形成する。図70で針床F Uの編針g~pに掛止されたループを針床B Dの編針G~Pに移し、図71でフィーダー3を図69の状態から左方に移動させた後、フィーダー6を図66の状態から左方に移動させ各フィーダーからの給糸がクロスした状態にし、図72で針床F Dの編針Q~Vにフィーダー3から給糸してループを形成する。図73でフィーダー6を図66の状態から右方に移動させ、図74でフィーダー6からの給糸を針床F Dの編針Qにタックさせた状態で針床F Dの編針P、Oに供給してループを形成した

後、この針床F Dの編針P、Oに掛止しているループを図75で針床B Uの編針o、pに移す。
【0028】図76で後方の針床B U、B Dを左方に1ピッチラッキング(移動)させてから針床B Uの編針pに掛止されているループを針床F Dの編針Oに移すとともに、図77で後方の針床B U、B Dを右方に1ピッチラッキングさせて標準の位置に戻した後、針床B Uの編針oに掛止されているループを針床F Dの編針Oに移すと、この針床F Dの編針Oには二つのループが掛止された状態になる。次に、図78でフィーダー6を右方に移動させ、図79でフィーダー6から針床F Dの編針N、Oに給糸されてループが形成される。図75~図79の編成コースを8回繰り返した後、図80で針床F Dの編針G、Hに掛止しているループを針床B Uの編針g、hに移し、図81で後方の針床B U、B Dを左方に1ピッチラッキングさせてから針床B Uの編針hに掛止されているループを針床F Dの編針Gに移す。

【0029】図82で後方の針床B U、B Dを右方に1ピッチラッキングさせて標準の位置に戻した後、針床B Uの編針gに掛止されているループを針床F Dの編針Gに移して、この針床F Dの編針Gに二つのループを掛止させた状態にする。図83でフィーダー6を一旦右方に移動させてから、図84で針床F Dの編針Gにフィーダー6から給糸してループが形成されたのち、フィーダー6を左方に出す。図85で針床F Dの編針Gに掛止されているループを針床B Uの編針gに移した後、図86で後方の針床B U、B Dを左方に1ピッチラッキングさせてから針床B Uの編針gに掛止されているループを針床F Dの編針Fに移してこの編針Fには二つのループが掛止された状態にする。

【0030】しかるのち、図87で後方の針床B U、B Dを右方に1ピッチラッキングさせてから、針床B Dの編針G~Pに掛止されたループを針床F Dの編針G~Pに移した後、図88でフィーダー3で針床B Dの編針V~Aに給糸してループを形成すると、形成されたポケットの口部のリブ編みの両端縁部分は図58、図67で示すように身頃部分の編地に編糸同士が絡んで連結された状態に編成されるのである。以後、この図88を適宜繰り返して前身頃編地部分7が形成されるのである。こうして編成されたカーディガンの前身頃編地部分7には

下方及び両側縁部分が前身頃編地部分7の編糸に絡んで連結され、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃編地部分7の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付型ポケット2特有の盛り上がりに富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【0031】〔実施例2〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1で用いられた編機が、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機であるのに対して、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させニードルベッドを1対設けた通常の所謂“二枚ニードルベッド”を利用して上記“四枚ニードルベッド”と同様の貼付け型ポケットする方法である。

【0032】即ち、図89で示すように、前方のニードルベッドFの例えば編針A~qの内1つ置き編針A、C、E・・・m、o、qを実施例1に於ける前方で下側に配設された針床F Dとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・l、n、pを実施例1に於ける前方で上側に配設された針床F Uとして作用させるとともに、後方のニードルベッドBの例えば編針A~qの内1つ置き編針A、C、E・・・m、o、qを実施例1に於ける後方で下側に配設された針床B Dとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・l、n、pを実施例1に於ける後方で上側に配設された針床B Uとして作用させるようにしたものである。

【0033】そして、具体的には図89は実施例1における図4に対応し、これから図173までは夫々実施例1における図88迄の各編成コースに順次対応し、形成されるポケット2も上記実施例1と同様に、ポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の編地に編糸同士が絡んで連結された状態で、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃編地部分の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付型ポケット特有の盛り上がりに富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【0034】〔実施例3〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1と同様に用いられる編機を、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機を用い、図174で示すようなポケットの両端縁部分が身頃部分の編地に編糸とループが交叉した状態で連結された貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。

【0035】そして、図175乃至図205までは上記実施例1における貼付け型ポケットを有する編地の編成方法の編成コースの内、変更する部分のみを示す。此处で、図175乃至図203で編成されるポケット2のストレート部分のループの数が図32乃至図45に示され

るループの数と相違するが、これは当該実施例に使用した“四枚ニードルベッド”の横編機がその前方のニードルベッドと後方のニードルベッドとを0.5ピッチずらして設けられたものを使用しているからであって、それ以外は上記実施例1と同じである。

【0036】即ち、図175でフィーダー5を右方に移動させ、図176で針床FDの編針A～Fにフィーダー3から給糸してループを形成するとともに、図177でフィーダー5を左方に移動させ、図178で針床FUの編針gにフィーダー5から給糸してループを形成する。図179で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針gに掛止されているループを針床BDの編針Gに移した後、針床FUの編針h及び針床BDの編針Gにフィーダー5から給糸し、図180で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチ移動させて戻し、フィーダー3を左方に移動させると、フィーダー5から針床BDの編針Gに掛止しているループの周囲を周回するようになる。

【0037】図181でフィーダー5から針床FUの編針h～oに給糸してループを形成した後、図182で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針h～nに掛止したループを針床BDの編針H～Nに移す。図183で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻すとともに、フィーダー5を左方に移動させる。図184では針床FDの編針V～Qにフィーダー4で給糸してループを形成するとともに、図185でフィーダー5を右方に移動させ、図186で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針oに掛止されているループを針床BDの編針Oに移し、図187で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチ移動させて戻し、フィーダー4を右方に移動させると、フィーダー5から針床BDの編針Gに掛止しているループの周囲を周回するようになる。

【0038】図188でフィーダー5から針床FDの編針P～Gに給糸してループを形成し、図189で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床BDの編針G～Oに掛止しているループを針床FUの編針g～oに移す。図190では図180の位置にあるフィーダー3を右方に移動させ、図191で針床FUの編針gにフィーダー5から給糸されてループを形成した後、図192で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針gのループを針床BDの編針Gに移す。図193でフィーダー3から針床BDの編針Gに掛止しているループの周囲を周回させ針床FDの編針A～Fに給糸してループを形成し、図194でフィーダー5を左方に移動させた後、図195でこのフィーダー5から針床FUの編針h～oに給糸してループを形成する。

【0039】図196では後方の針床BU、BDを左方

に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針h～nに掛止しているループを針床BDの編針H～Nに移し、図197でフィーダー4を左方に移動させた後、図198で針床FUの編針oに掛止しているループを針床BDの編針Oに移す。図199ではフィーダー5を左方に移動させた後、図200でこのフィーダー4を入れ、このフィーダー4から針床BDの編針Oに掛止しているループの周囲を周回させ針床FDの編針Q～Vに給糸してループを形成する。図201でフィーダー5を右方に移動させ、図202でこのフィーダー5から針床FDの編針P～Gに給糸してループを形成し、図203で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングした後、針床BDの編針G～Oに掛止しているループを針床FUの編針g～oに移す。

【0040】以後この図175から図203までの編成コースが繰り返されてポケット2のストレート部分が編成されるのである。こうして編成されたポケット2の両側縁部分と前身頃7の編地との連結は図174に示すように編糸とループが絡み合った状態となる。

【0041】〔実施例4〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例3で用いられた編機が、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機であるのに対して、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させニードルベッドを1対設けた通常の所謂“二枚ニードルベッド”を利用して上記“四枚ニードルベッド”と同様のポケットの両端縁部分が身頃部分の編地に編糸とループが交叉した状態で連結された貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。

【0042】即ち、図204で示すように、前方のニードルベッドFの例えば編針A～oの1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例3に於ける前方で下側に配設された針床FDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例3に於ける前方で上側に配設された針床FUとして作用させるとともに、後方のニードルベッドBの例えば編針A～oの内1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例3に於ける後方で下側に配設された針床BDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例3に於ける後方で上側に配設された針床BUとして作用させるようにしたものである。

【0043】そして、具体的には図204は上記実施例3における図175に対応し、これから図232までは夫々実施例3における図203迄の各編成コースに順次対応し、形成されるポケット2も上記実施例3と同様に、ポケット2の両側縁部分と前身頃7の編地との連結は図174に示すように編糸とループが絡み合った状態で、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃の編地部分

の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付型ポケット特有の盛り上がり富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【0044】〔実施例5〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1と同様に、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編機を用い、図235で示すようなポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の連結をニットによる連結で形成するようにした貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。そして、図234乃至図261までは上記実施例1における貼付け型ポケットを有する編地の編成方法の編成コースの内、変更する部分のみを示す。此处で、図234乃至図261で編成されるポケット2のストレート部分のループの数が実施例1に於ける図32乃至図45に示されるループの数と相違するが、これは当該実施例に使用した“四枚ニードルベッド”の横編機がその前方のニードルベッドと後方のニードルベッドとを0.5ピッチずらして設けられたものを使用しているからであって、それ以外は上記実施例1と同じである。

【0045】即ち、図234でフィーダー5を右方に移動させ、図235で針床FDの編針A～Fにフィーダー3から給糸してループを形成するとともに、図236でフィーダー3及びフィーダー5を左方に移動させる。この時、針床FUの編針g及びoは空針ニットされた置目に表目を重ねた状態にしてある。図237で針床BDの編針Gにフィーダー3から給糸してループを形成する所謂“空針ニット”をし、図238でフィーダー3を左方に移動させ、図239でフィーダー5で針床FUの編針g～oに給糸してループを形成する。図240で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針g～nのループを針床BDの編針G～Nに移し、図241でフィーダー5を左方に移動させる。図242で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FDの編針V～Qにフィーダー4から給糸してループを形成した後、図243で針床BU、BDを右方に0.5ピッチ移動させて戻し、フィーダー4及びフィーダー5を右方に移動させ、図244で針床BDの編針Oにフィーダー4から給糸して空針にループを形成する“空針ニット”を行う。

【0046】図245でフィーダー4を右方に移動させてフィーダー5との給糸がクロスした状態にし、図246で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床FUの編針oのループを針床BDの編針Oに移して重ねると、ポケットの右側縁部分は前身頃7の編地に絡んだ状態になる。図247で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、フィーダー5から針床FDの編針P～Gに給糸してループを形成し、図248では後方の針床BU、BDを

左方に0.5ピッチ移動させてから針床BDの編針G～Oに掛止されているループを針床FUの編針g～oに移す。図249で空針となっている針床BDの編針Gにフィーダー3で給糸してループを形成し、図250でフィーダー5を右方に移動させるとフィーダー3とフィーダー5とからの給糸はクロスした状態になり、図251でフィーダー3から針床FDの編針F～Aに給糸してループを形成し、図252でフィーダー5を左方に移動させる。

【0047】図253で針床FUの編針g～oにフィーダー5から給糸してループを形成し、図254で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床FUの編針g～oのループを針床BDの編針G～Nに移し、図255で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて針床BDの空針となっている編針Oにフィーダー4から給糸してループを形成する。図256でフィーダー5を左方に移動させ、図257で針床FUの編針q～vにフィーダー4で給糸し、図258でフィーダー5を右方に移動させ、図259で針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針oに掛止されているループを針床BDの編針Oに移す。図260で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチ移動させて戻し、針床FDの編針P～Gにフィーダー5で給糸してループを形成した後、図261で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチ移動させ、針床BDの編針G～Oに掛止されているループを針床FUの編針g～oに移す。

【0048】以後この図234から図261までの編成コースが繰り返されてポケット2のストレート部分が編成されるのである。こうして編成されたポケット2の両側縁部分と前身頃編地部分7との連結は図233に示すようにニットで連結された状態となるとともに、編地はインターシャ編みとなる。

【0049】〔実施例6〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例5で用いられた編機が、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機であるのに対して、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させニードルベッドを1対設けた通常の所謂“二枚ニードルベッド”を利用して上記“四枚ニードルベッド”と同様のポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の編地に編糸とニットで連結された状態の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。

【0050】即ち、図262で示すように、前方のニードルベッドFの例えば編針A～oの1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例5に於ける前方で下側に配設された針床FDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例5に於ける前方で上

10

20

30

40

50

側に配設された針床F Uとして作用させるとともに、後方のニードルベッドBの例えば編針A～oの内1つ置き
の編針A、C、E・・・k、m、oを実施例5に於ける後方
で下側に配設された針床B Dとし、他の1つ置き
の編針B、D、F・・・h、l、nを実施例5に於ける
後方で上側に配設された針床B Uとして作用させるよ
うにしたものである。

【0051】そして、具体的には図262は上記実施例
5における図234に対応し、図263から図289ま
では夫々実施例5における図235から図261迄の各
編成コースに順次対応し、形成されるポケット2も上
記実施例5と同様に、ポケット2の両側縁部分と前身頃
編地部分7との連結は図233に示すようにニットされ
た状態で、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃の
編地部分の編み組織が表地に形成されるとともに、貼
付型ポケット特有の盛り上がりに富んだ状態のポッケ
ットが形成されるのである。

【0052】〔実施例7〕此の実施例に斯かる貼付け
型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1と同様
に、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した
針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させ
た所謂“四枚ニードルベッド”の横編機を用い、図
290で示すようなポケットの底部及び両端縁部分が
前身頃部分の連結をニットによる連結で形成するよ
うにした貼付け型ポケットを有する編地の編成方法
を示すものである。そして、図291乃至図320ま
では上記実施例1における貼付け型ポケットを有す
る編地の編成方法の編成コースの内、変更する部分
のみを示す。此处で、図291乃至図320で編成さ
れるポケットのストレート部分のループの数が実施
例1に於ける図32乃至図45に示されるループの数
と相違するが、これは当該実施例に使用した“四枚
ニードルベッド”の横編機がその前方のニードルベ
ッドと後方のニードルベッドとを0.5ピッチずら
して設けられたものを使用しているからであって、そ
れ以外は上記実施例1と同じである。

【0053】即ち、図291でフィーダー5を右方に
移動させ、図292で針床F Dの編針A～Fにフィー
ダー3から給糸しループを形成するとともに、図293
でフィーダー3及びフィーダー5を左方に移動させる。
図294で後方の針床B U、B Dを左方に0.5ピ
ッチラッキングさせてから針床F Uの編針gのル
ープを針床B Dの編針Gに移し、図295で後方の
針床B U、B Dを右方に0.5ピッチラッキングさ
せて戻し、フィーダー3で針床B Dの編針Gに給
糸してループを形成する。図296でフィーダー3を
左方に移動させ、図297で後方の針床B U、B D
を左方に0.5ピッチラッキングさせ、針床B Dの
編針Gのループを針床F Uの編針gに移す。図298
では後方の針床B U、B Dを右方に0.5ピッチラ
ッキングさせて戻し、フィーダー5から針床F Uの
編針g～oに給糸してループを形成する。図29

9で後方の針床B U、B Dを左方に0.5ピッチラ
ッキングさせてから針床F Uの編針g～nのループを
針床B Dの編針G～Nに移し、図300で後方の針
床B U、B Dを右方に0.5ピッチラッキングさせ
て戻し、フィーダー5を左方に移動させる。

【0054】図301で針床F Dの編針V～Qにフ
ィーダー4で給糸しループを形成した後、図302で
フィーダー4及びフィーダー5を右方に移動させ、
図303で後方の針床B U、B Dを左方に0.5ピ
ッチラッキングさせてから針床F Uの編針oのル
ープを針床B Dの編針Oに移す。図304で後方の
針床B U、B Dを右方に0.5ピッチラッキングさ
せて戻し、針床B Dの編針Oにフィーダー4から
給糸して形成した後、図305でこのフィーダー4を
右方に移動させる。図306ではフィーダー5で針
床F Dの編針P～Gに給糸してループを形成し、
図307で後方の針床B U、B Dを左方に0.5ピ
ッチ移動させてから針床B Dの編針H～Oに掛止
されているループを針床F Uの編針h～oに移す。
図308で針床B Dの編針Gにフィーダー3で給
糸してループを形成し、図309でフィーダー5を
右方に移動させるとフィーダー3とフィーダー5と
からの給糸はクロスした状態になる。

【0055】図310でフィーダー3から針床F D
の編針F～Aに給糸してループを形成した後、図311
でフィーダー5を左方に移動させ、図312で後方の
針床B U、B Dを左方に0.5ピッチ移動させて
から針床B Dの編針Gに掛止しているループを針
床F Uの編針gに移す。図313で後方の針床B U
、B Dを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し
てから、針床F Uの編針g～oにフィーダー5か
ら給糸してループを形成し、図314で後方の針床
B U、B Dを左方に0.5ピッチラッキングさせた
後、針床F Uの編針g～oのループを針床B Dの
編針G～Oに移す。図315で後方の針床B U、
B Dを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、
針床B Dの編針Oにフィーダー4から給糸してル
ープを形成する。図316でフィーダー5を左方に
移動させ、図317で針床F Uの編針Q～Vにフ
ィーダー4で給糸し、図318でフィーダー5を右
方に移動させ、図319針床F Dの編針P～Gに
フィーダー5で給糸してループを形成する。図320
で後方の針床B U、B Dを左方に0.5ピッチ移
動させ、針床B Dの編針G～Oに掛止されてい
るループを針床F Uの編針g～oに移す。

【0056】以後この図291から図320までの編
成コースが繰り返されてポケット2のストレート部
分が編成されるのである。こうして編成されたポ
ケット2の両側縁部分と前身頃7の編地との連結
は図292に示すように編込みにより連結された
状態となるとともに、編地は各フィーダーから
供給された編糸による縦筋の模様、所謂“インター
シャ柄”になる。

【0057】〔実施例8〕此の実施例に斯かる貼
付け型

ポケットを有する編成方法は、上記実施例7で用いられた編機が、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機であるのに対して、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させニードルベッドを1対設けた通常の所謂“二枚ニードルベッド”を利用して上記“四枚ニードルベッド”と同様のポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の編地に編糸とニットで連結された状態の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。

【0058】即ち、図321で示すように、前方のニードルベッドFの例えば編針A～oの1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例7に於ける前方で下側に配設された針床FDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例7に於ける前方で上側に配設された針床FUとして作用させるとともに、後方のニードルベッドBの例えば編針A～oの内1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例7に於ける後方で下側に配設された針床BDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例7に於ける後方で上側に配設された針床BUとして作用させるようにしたものである。

【0059】そして、具体的には図321は上記実施例7における図291に対応し、図322から図350までは夫々実施例7における図292から図320迄の各編成コースに順次対応し、形成されるポケット2も上記実施例7と同様に、ポケット2の両側縁部分と前身頃編地部分7との連結は図233に示すようにニットで連結された状態で、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃編地部分の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付け型ポケット特有の盛り上がり富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【0060】〔実施例9〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1と同様に、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機を用い、図351で示すようにポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の連結を編糸同士の連結で形成するようにした貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。そして、図352乃至図367までは上記実施例1における貼付け型ポケットを有する編地の編成方法の編成コースの内、変更する部分のみを示す。此处で、図352乃至図367で編成されるポケット2のストレート部分のループの数が実施例1に於ける図32乃至図45に示されるループの数と相違するが、これは当該実施例に使用した“四枚ニードルベッド”の横編み機がその前方のニードルベッドと後方のニードルベッドとを0.5ピッチずらして設けられたものを使用しているからであって、それ以外は

上記実施例1と同じである。

【0061】即ち、図352で針床FDの編針A～Fにフィーダー5で給糸してループを形成した後、図353でフィーダー5及びフィーダー3を左方に移動させ、図354で針床FDの編針F～Pにフィーダー5で給糸してループを形成するとその両端部は絡んだ状態になる。図355で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床BDの編針G～Oのループを針床FUの編針g～oに移し、図356で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、針床FUの編針g～oにフィーダー3から給糸してループを形成する。図357で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床FUの編針g～oのループを針床BDの編針G～Oに移すと、図358で示すようにポケット2の左端縁部は編糸が絡んだ状態になる。又、図358ではフィーダー5及びフィーダー3を左方に移動させ、両フィーダー3・5からの編糸がクロスした状態にし、図359で針床FDの編針Q～Vにフィーダー5から給糸してループを形成するとポケット2の左端縁部は編糸が絡んだ状態になる。

【0062】図360で針床FDの編針V～Qにフィーダー5から給糸してループを形成し、図361でフィーダー3及びフィーダー5を右方に移動させ、図362で針床FDの編針P～Gにフィーダー5で給糸してループを形成した後、図363で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチ移動させてから、針床BDの編針G～Oのループを針床FUの編針g～oに移す。図364で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、針床FUの編針o～gにフィーダー3から給糸してループを形成した後、図365で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床FUの編針g～oのループを針床BDの編針G～Oに移す。そして、図366でフィーダー5及びフィーダー3を右方に移動させ、両フィーダー3・5からの編糸がクロスした状態にし、図367で針床FDの編針F～Aにフィーダー5から給糸してループを形成するとポケット2の左端縁部は編糸が絡んだ状態になる。

【0063】以後この図352から図367までの編成コースが繰り返されてポケット2のストレート部分が編成されるのである。こうして編成されたポケット2の両側縁部分と前身頃編地部分7との連結は図351に示すようにニットされて連結した状態となる。

【0064】〔実施例10〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例9で用いられた編機が、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編み機であるのに対して、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させニードルベッドを1対設けた通常の所謂“二枚ニードルベッド”を利用して上記

“四枚ニードルベッド”と同様のポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の編地に編糸とニットで連結された状態の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。

【0065】即ち、図368で示すように、前方のニードルベッドFの例えば編針A～oの1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例9に於ける前方で下側に配設された針床FDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例9に於ける前方で上側に配設された針床FUとして作用させるとともに、後方のニードルベッドBの例えば編針A～oの内1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例9に於ける後方で下側に配設された針床BDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例9に於ける後方で上側に配設された針床BUとして作用させるようにしたものである。

【0066】そして、具体的には図368は上記実施例9における図352に対応し、図369から図383までは夫々実施例9における図353から図367迄の各編成コースに順次対応し、形成されるポケット2も上記実施例9と同様に、ポケット2の両側縁部分と前身頃編地部分7との連結は図351に示すように編糸同士の交叉で連結された状態で、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃の編地部分の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付型ポケット特有の盛り上がりに富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【0067】〔実施例11〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1と同様に、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編機を用い、図384で示すようにポケットの底部及び両端縁部分が前身頃編地部分の連結をタックにより連結するようにした貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。そして、図385乃至図392までは上記実施例1における貼付け型ポケットを有する編地の編成方法の編成コースの内、変更する部分のみを示す。此处で、図385乃至図392で編成されるポケット2のストレート部分のループの数が実施例1に於ける図32乃至図45に示されるループの数と相違するが、これは当該実施例に使用した“四枚ニードルベッド”の横編機がその前方のニードルベッドと後方のニードルベッドとを0.5ピッチずらして設けられたものを使用しているからであって、それ以外は上記実施例1と同じである。

【0068】即ち、図385で針床FDの編針A～F及び針床FUの編針g～oにフィーダー3から給糸してループを形成した後、図386で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床FUの編針g～oのループを針床BDの編針G～Oに移す。然る後、図387で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピ

ッチラッキングさせて戻し、針床FDの編針Qにタックした状態で編針P～Aにフィーダー3から給糸し、図388で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせてから針床BDの編針G～Oのループを針床FUの編針h～pに移す。図389で針床FDの編針V～Q及び針床FUの編針p～hにフィーダー4で給糸してループを形成した後、図390で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせ、針床FUの編針h～pを針床BDの編針G～Oのループに移す。

【0069】次に、図391で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、針床FDの編針Fにタックした状態で編針G～Vにフィーダー4から給糸してループを形成した後、図392で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせ、針床BDの編針G～Oのループを針床FUの編針g～oに移す。以後この図385から図392までの編成コースが繰り返されてポケット2のストレート部分が編成されるのである。こうして編成されたポケット2の両側縁部分と前身頃編地部分7との連結は図384に示すように編糸同士が掛止した、所謂“タック”して連結された状態となる。

【0070】〔実施例12〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例11で用いられた編機が、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編機であるのに対して、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させニードルベッドを1対設けた通常の所謂“二枚ニードルベッド”を利用して上記“四枚ニードルベッド”と同様のポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の編地に編糸とニットで連結された状態の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。

【0071】即ち、図393で示すように、前方のニードルベッドFの例えば編針A～oの1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例11に於ける前方で下側に配設された針床FDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例11に於ける前方で上側に配設された針床FUとして作用させるとともに、後方のニードルベッドBの例えば編針A～oの内1つ置き編針A、C、E・・・k、m、oを実施例11に於ける後方で下側に配設された針床BDとし、他の1つ置き編針B、D、F・・・h、l、nを実施例11に於ける後方で上側に配設された針床BUとして作用させるようにしたものである。

【0072】そして、具体的には図393は上記実施例11における図385に対応し、図394から図400までは夫々実施例11における図386から図392迄の各編成コースに順次対応し、形成されるポケット2も上記実施例11と同様に、ポケット2の両側縁部分と前

身頃編地部分7との連結は図384に示すように連結された状態で、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃の編地部分の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付型ポケット特有の盛り上がりに富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【0073】

【発明の効果】本発明は以上に説明したように、少なくとも前後一對に配設された針床に多数の編針を並設して成る横編み機を用いてポケットを身頃と一体に形成するとともに、ポケットの表部分の上端にリブ編み部分を一体に形成するようにして有るので、外観及び機能美に優れた商品価値の高いものを簡単に生産することが出来ながらも、完成された貼付け型ポケットを有する編地は、ポケットの表面の編地と、これに隠れる部分のベース編地部の表面組織は同じ編み組織にされており、生産された衣類を着用時にも本出願人が先に提案したもののよう、ポケットの上部開口から裏目組織に入れ替わった部分が見えて見栄えが悪くなることも無く、製品の商品価値を大幅に向上させることができると言う利点がある。

【0074】更に、ポケットの表面の編地と、これに隠れる部分のベース編地部との表面編地組織が同じ組織で編成するようにしてあるので、ポケットの表面の編地と、これに隠れる部分のベース編地部との表面編地組織が裏目組織に入れ替わってしまう従来のように、ポケットの表面の編地がベース編地部分に入り込むことも無く、貼付け型ポケット特有の盛り上がりのあるポケットを形成することが出来ると言う利点もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】ニット製品におけるポケット部を形成した編地の正面図である。

【図2】図2におけるX-X線断面の組織拡大図である。

【図3】編成コースに使用される記号の説明図である。

【図4】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図5】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図6】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図7】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図8】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図9】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図10】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図11】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図12】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図13】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図14】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図15】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図16】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図17】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図18】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図18】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図19】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図20】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図21】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図22】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図23】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図24】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図25】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図26】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図27】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図28】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図29】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図30】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図31】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図32】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図33】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図34】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図35】実施例1に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図109】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１１０】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１１１】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 112】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 113】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 114】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 115】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 116】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 117】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１１８】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形
20 成する編成コース説明図である。

【図 119】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２０】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２１】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２２】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 123】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２４】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２５】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２６】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２７】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１２８】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形
40 成する編成コース説明図である。

【図１２９】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図130】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図１３１】実施例２に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図132】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 133】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形
50 成する編成コース説明図である。

【図159】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図160】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 161】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図162】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図163】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図164】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図165】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図166】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図167】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図168】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図169】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図170】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 171】実施例 2 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図172】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図173】実施例2に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図174】実施例3により編成された図2に相当する組織図である。

【図175】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図176】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図177】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図178】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図179】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図180】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図181】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図182】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図183】実施例3に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 219】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図２２０】実施例４に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 221】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 222】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 223】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 224】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 225】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 2 2 6】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図２２７】実施例４に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 228】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図229】実施例4に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図230】実施例4に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 231】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 232】実施例 4 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 233】実施例 5 により編成された図 2 に相当する組織図である。

【図 234】実施例 5 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 235】実施例 5 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 236】実施例 5 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 237】実施例 5 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 238】実施例 5 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図239】実施例5に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図240】実施例5に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 241】実施例 5 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図242】実施例5に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図243】実施例5に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図269】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図270】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図271】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図272】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図273】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図274】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図275】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図276】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図277】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図278】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図279】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図280】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図281】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図282】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図283】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図284】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図285】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図286】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図287】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図288】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図289】実施例6に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図290】実施例7により編成された図2に相当する組織図である。

【図291】実施例7に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図２９２】実施例７に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図293】実施例7に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３１８】実施例７に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 319】実施例 7 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３２０】実施例７に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図321】実施例8に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 2 2】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形
10 成する編成コース説明図である。

【図３２３】実施例８に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 2 4】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 2 5】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 2 6】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図327】実施例8に係るポケットを身頃と一体に形
成する編成コース説明図である。

【図 3 2 8】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 329】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 330】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 331】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 3 1】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 3 2】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 3 3】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 334】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 335】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 336】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形
40 成する編成コース説明図である。

【図 337】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 338】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 3 9】実施例 8 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図340】実施例8に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図341】実施例8に係るポケットを身頃と一体に形
50 成する編成コース説明図である。

【図 367】実施例 10 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３６８】実施例１９に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図369】実施例10に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図370】実施例10に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３７１】実施例１０に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３７２】実施例１０に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３７３】実施例１０に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３７４】実施例１０に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 375】実施例 10 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図３７６】実施例１０に係るポケットを身頃と一体に
20 形成する編成コース説明図である。

【図３７７】実施例１０に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図378】実施例10に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図379】実施例10に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図380】実施例10に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図381】実施例10に係るポケットを身頃と一体に
30 形成する編成コース説明図である。

【図382】実施例10に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図383】実施例10に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 384】実施例 11 により編成された図 2 に相当する組織図である。

【図 385】実施例 11 に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 8 6】実施例 1 1 に係るポケットを身頃と一体に
40 形成する編成コース説明図である。

【図387】実施例11に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図388】実施例11に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図389】実施例11に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図390】実施例11に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図 3 9 1】実施例 11 に係るポケットを身頃と一体に
50 形成する編成コース説明図である。

【図392】実施例11に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

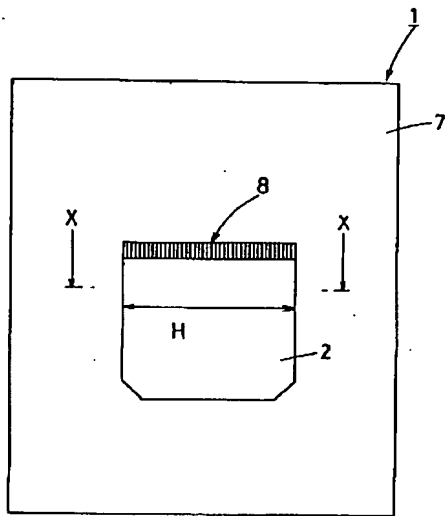
【図393】実施例12に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図394】実施例12に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図395】実施例12に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図396】実施例12に係るポケットを身頃と一体に*

【図1】



* 形成する編成コース説明図である。

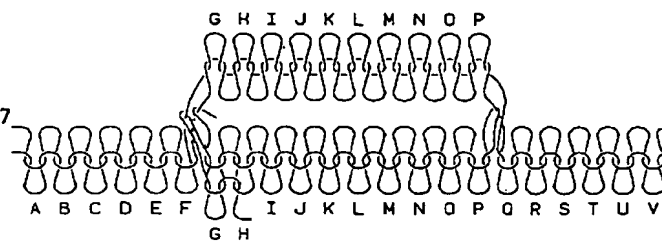
【図397】実施例12に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図398】実施例12に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図399】実施例12に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図400】実施例12に係るポケットを身頃と一体に形成する編成コース説明図である。

【図2】



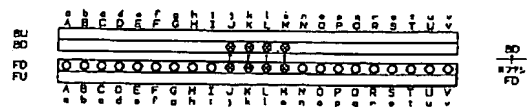
【図4】



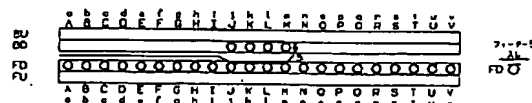
【図5】



【図6】



【図7】



【図3】

✓ 表目タック

↑ フィーダー

○ 表目ニット

⊙ 表目タック(置目)

↓ フィーダー

⊖ 裏目ニット

⊖ 空針ニットミス(置目)

○ ミス(置目)

⊙ 空針ニット置目ニ表目ヲ重ネ目

⊗ 割フヤシ

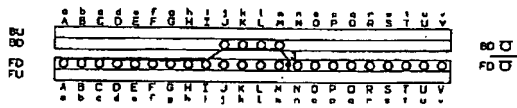
↑ 目移シ FからBへ

⊙ 表目に表目を重ね目

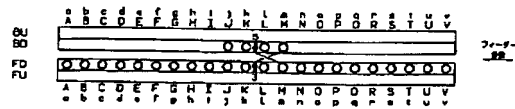
↓ 目移シ BからFへ

⊖ 空針ニット

【図8】



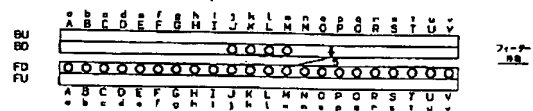
【図9】



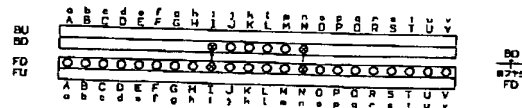
【図10】



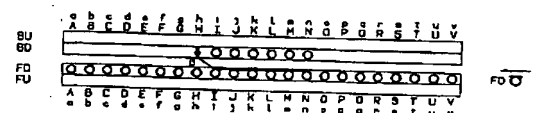
【図11】



【図12】



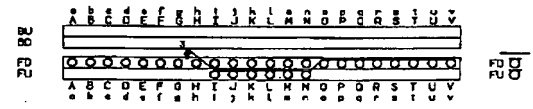
【図13】



【図14】



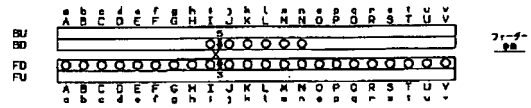
【図15】



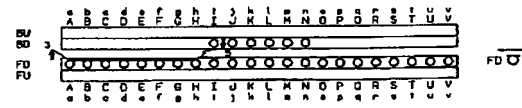
【図16】



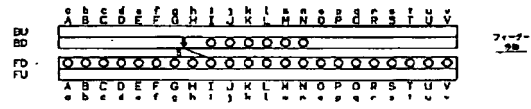
【図17】



【図18】



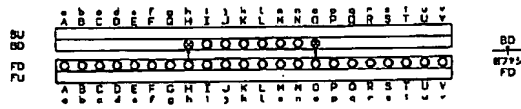
【図19】



【図21】



【図20】



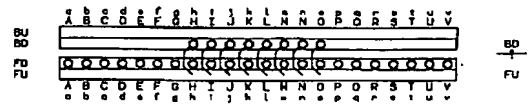
【図22】



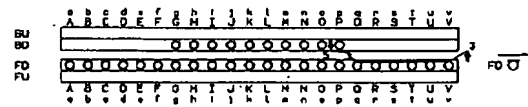
【図23】



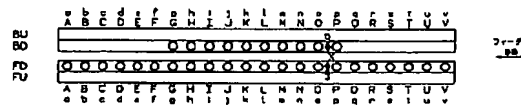
【図24】



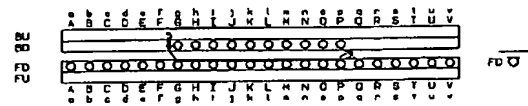
【図26】



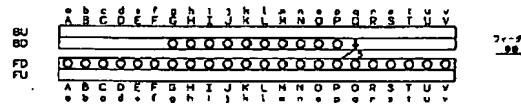
【図25】



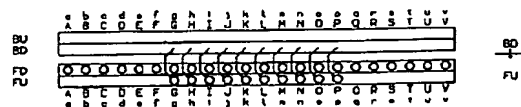
【図28】



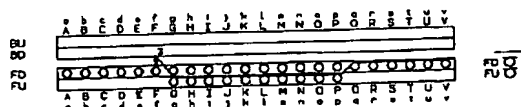
【図27】



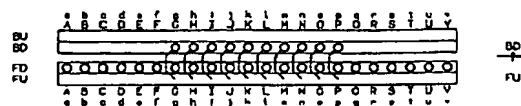
【図29】



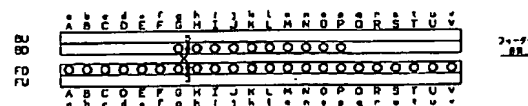
【図30】



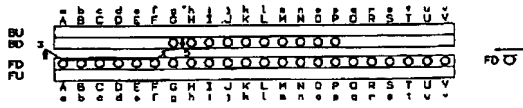
【図31】



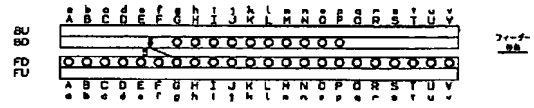
【図32】



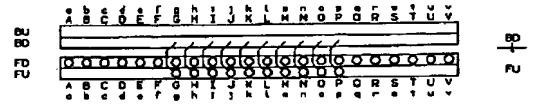
【図33】



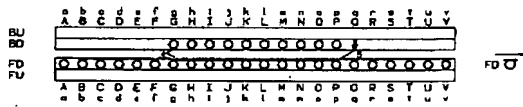
【図34】



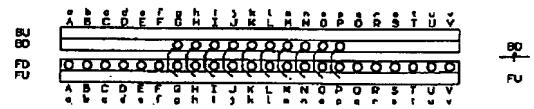
【図36】



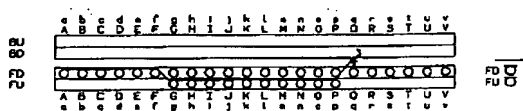
【図35】



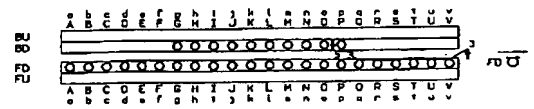
【図38】



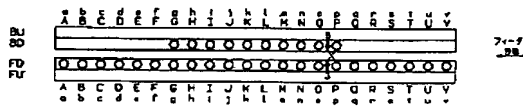
【図37】



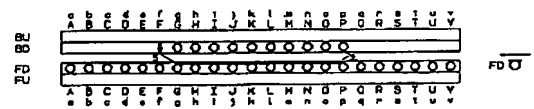
【図40】



【図39】



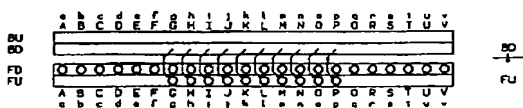
【図42】



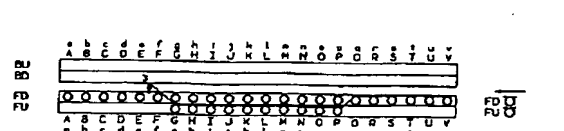
【図41】



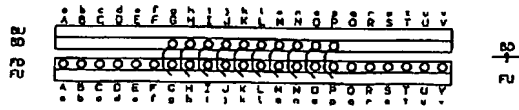
【図43】



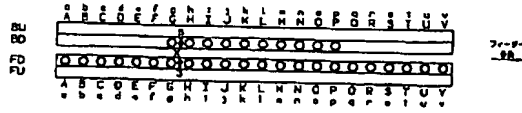
【図44】



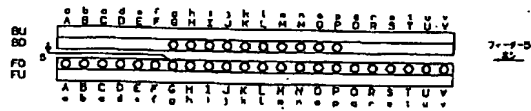
【図45】



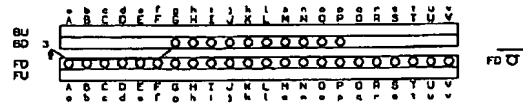
【図46】



【図47】



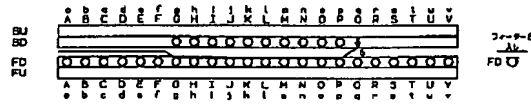
【図48】



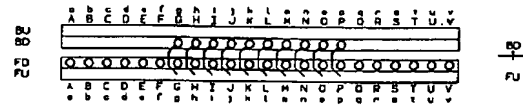
【図50】



【図49】



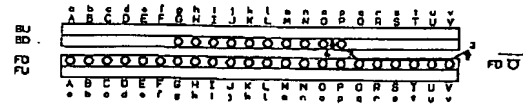
【図52】



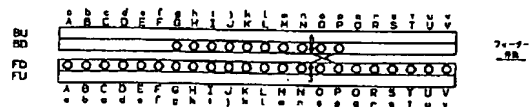
【図51】



【図54】



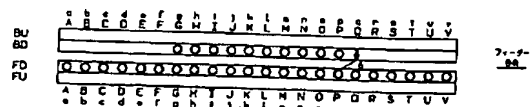
【図53】



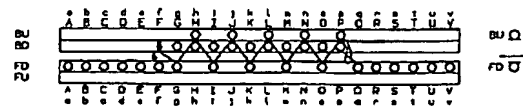
【図56】



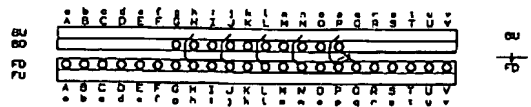
【図55】



【図57】



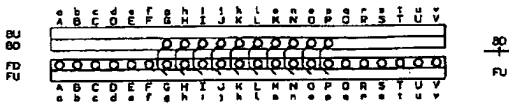
【図58】



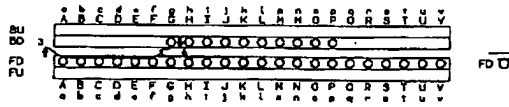
【図59】



【図61】



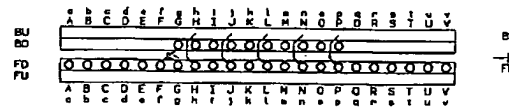
【図63】



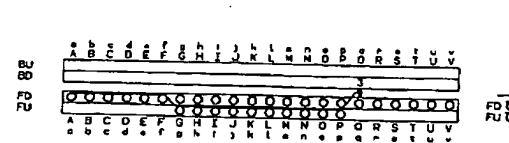
【図65】



【図67】



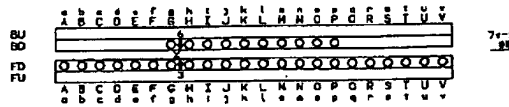
【図69】



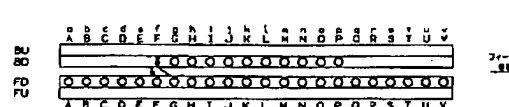
【図60】



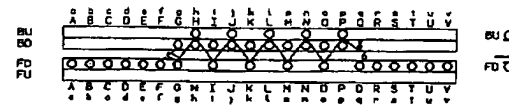
【図62】



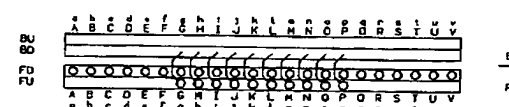
【図64】



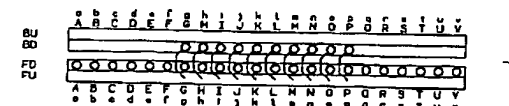
【図66】



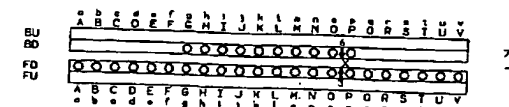
【図68】



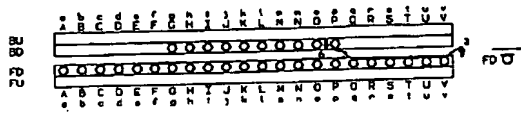
【図70】



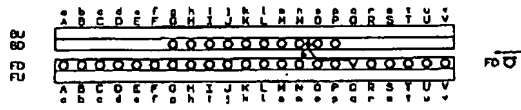
【図71】



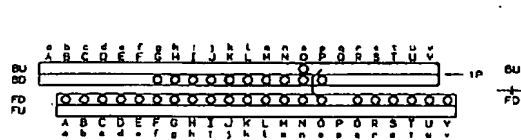
【図72】



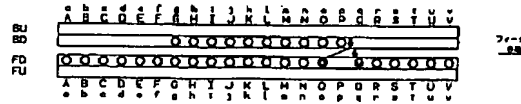
【図74】



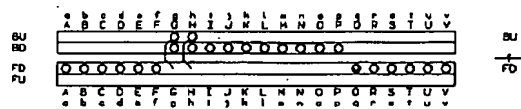
【図76】



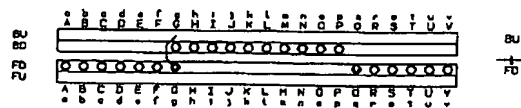
【図78】



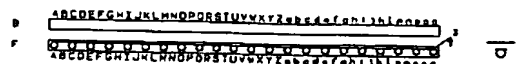
【図80】



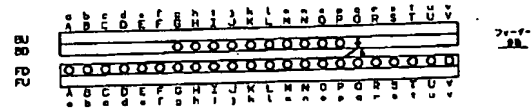
【図82】



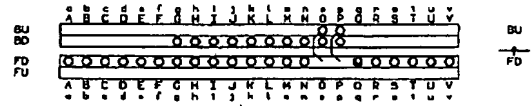
【図89】



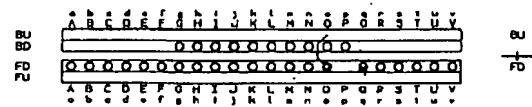
【図73】



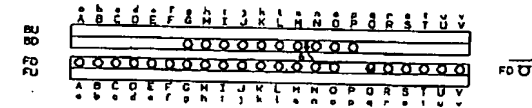
【図75】



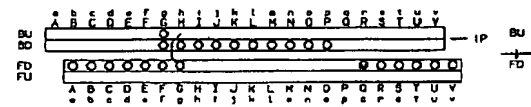
【図77】



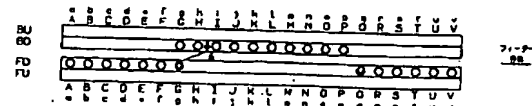
【図79】



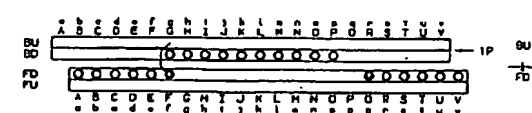
【図81】



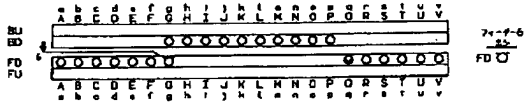
【図83】



【図86】



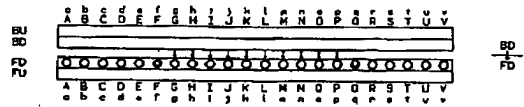
【図84】



【図85】



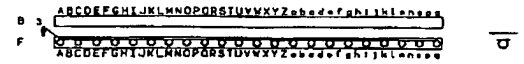
【図87】



【図88】



【図90】



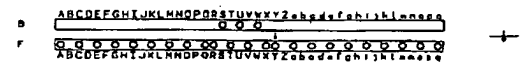
【図91】



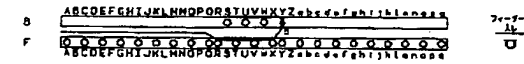
【図92】



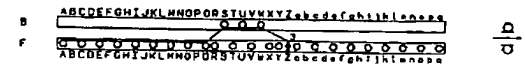
【図93】



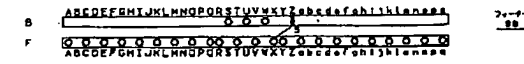
【図94】



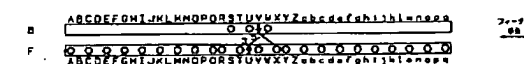
【図95】



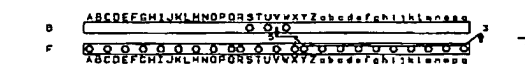
【図98】



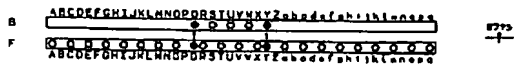
【図96】



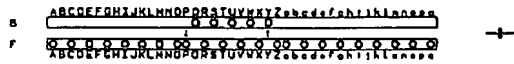
【図97】



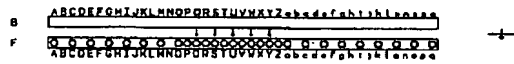
【図99】



【図101】



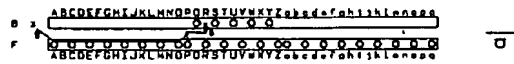
【図103】



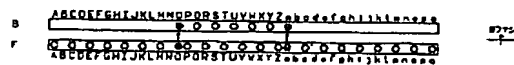
【図105】



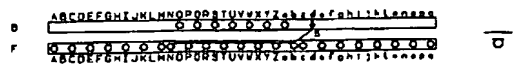
【図107】



【図109】



【図112】



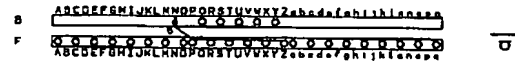
【図114】



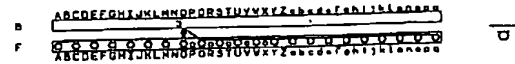
【図100】



【図102】



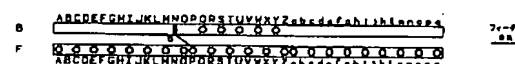
【図104】



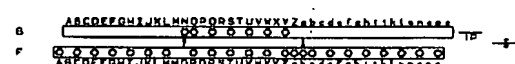
【図106】



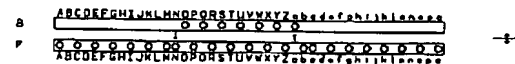
【図108】



【図110】



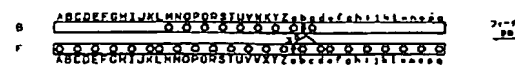
【図111】



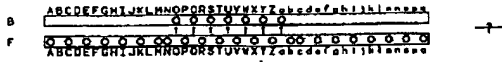
【図113】



【図116】



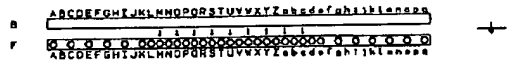
【図115】



【図118】



【図120】



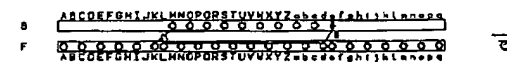
【図122】



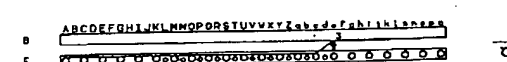
【図124】



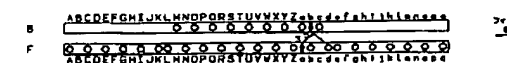
【図126】



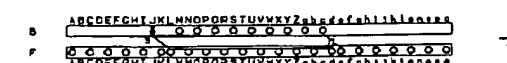
【図128】



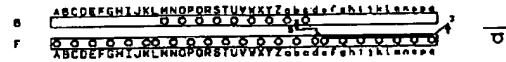
【図130】



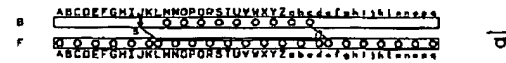
【図133】



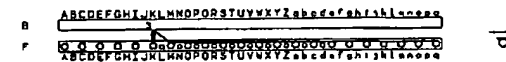
【図117】



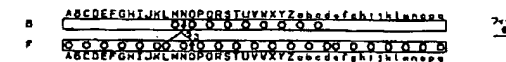
【図119】



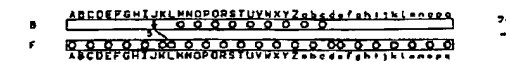
【図121】



【図123】



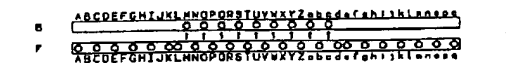
【図125】



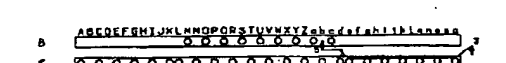
【図127】



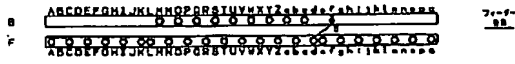
【図129】



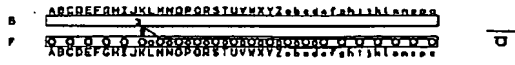
【図131】



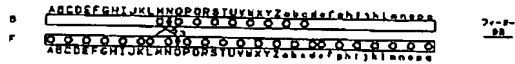
【図132】



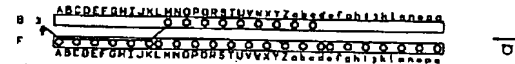
【図135】



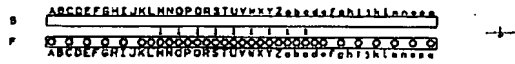
【図137】



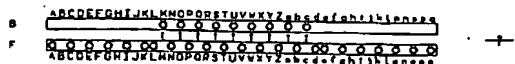
【図139】



【図141】



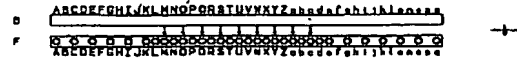
【図143】



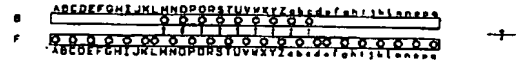
【図145】



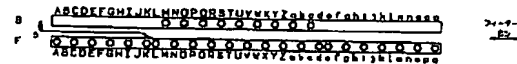
【図134】



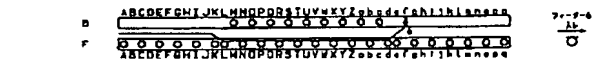
【図136】



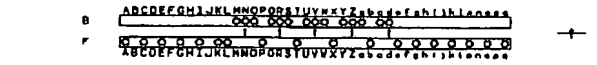
【図138】



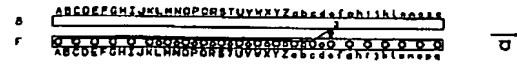
【図140】



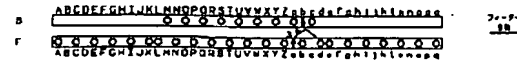
【図147】



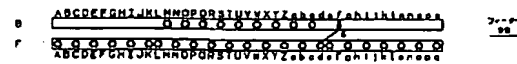
【図142】



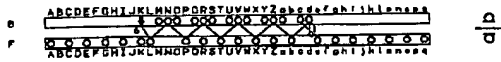
【図144】



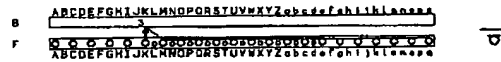
【図146】



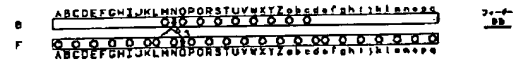
【図148】



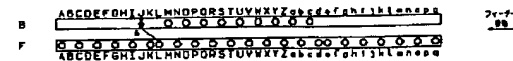
【図150】



【図152】



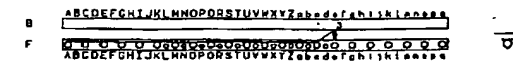
【図154】



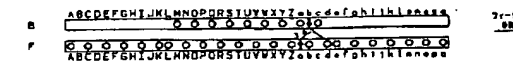
【図156】



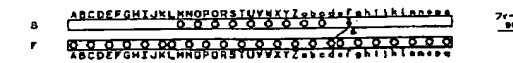
【図158】



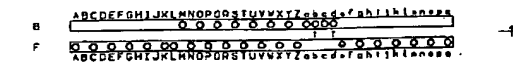
【図160】



【図162】



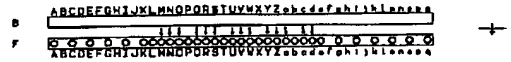
【図164】



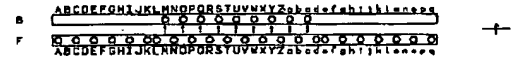
【図165】



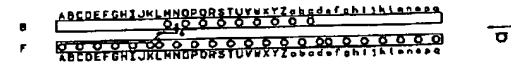
【図149】



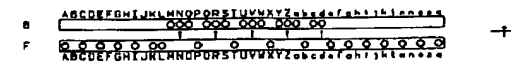
【図151】



【図153】



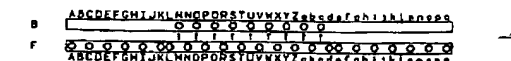
【図155】



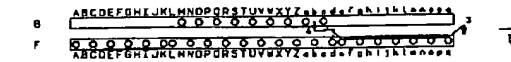
【図157】



【図159】



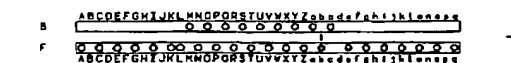
【図161】



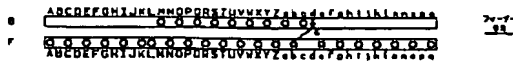
【図163】



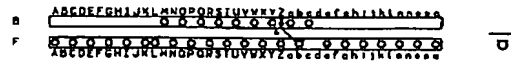
【図166】



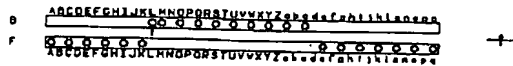
【図167】



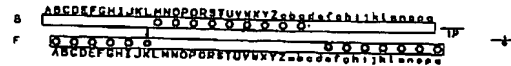
【図168】



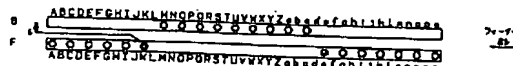
【図169】



【図170】



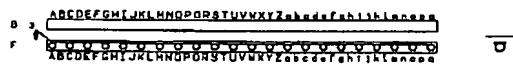
【図171】



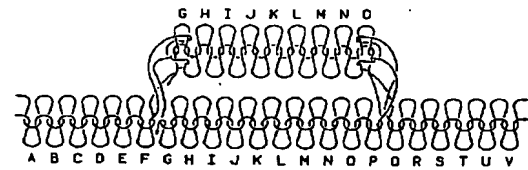
【図172】



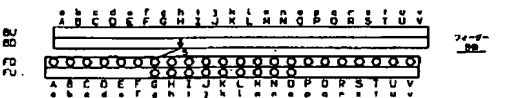
【図173】



【図174】



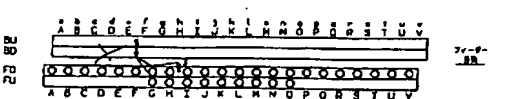
【図175】



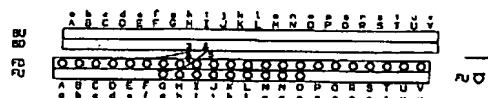
【図176】



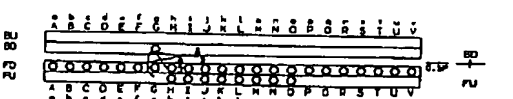
【図177】



【図178】



【図179】



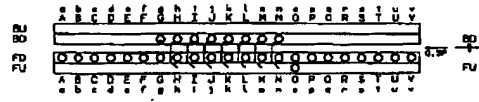
【図180】



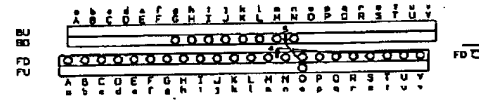
【図181】



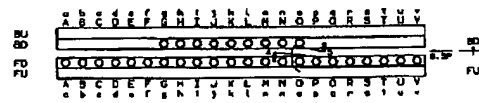
【図182】



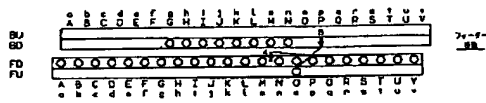
【図184】



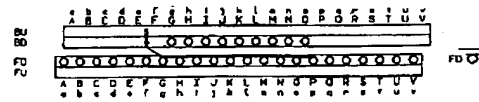
【図186】



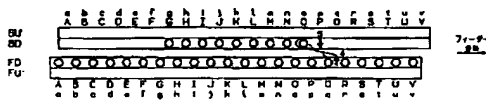
【図185】



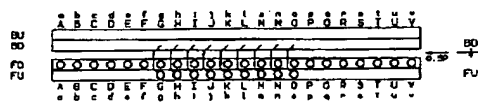
【図188】



【図187】



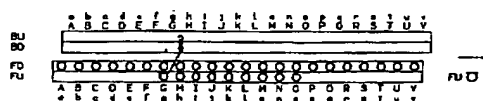
【図189】



【図190】



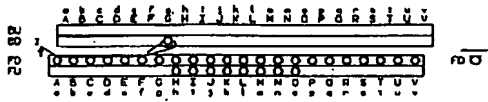
【図191】



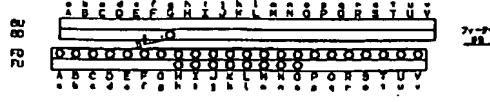
【図192】



【図193】



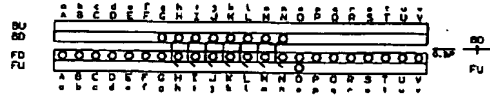
【図194】



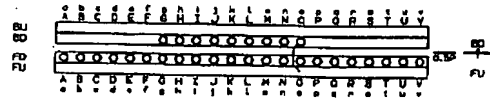
【図195】



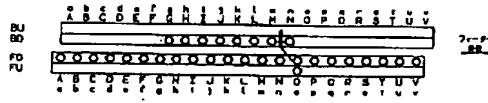
【図196】



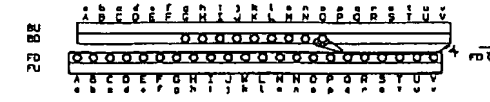
【図198】



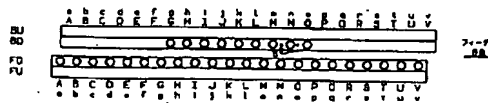
【図197】



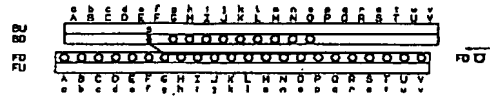
【図200】



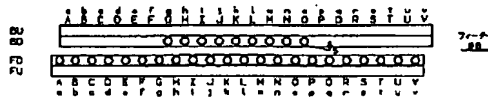
【図199】



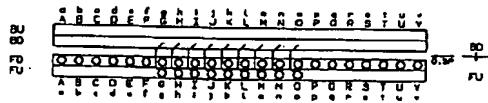
【図202】



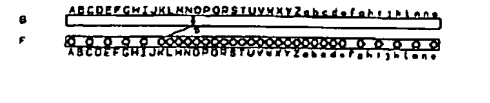
【図201】



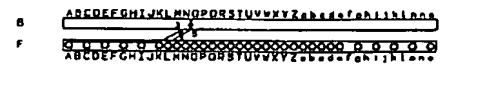
【図203】



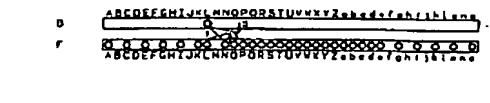
【図204】



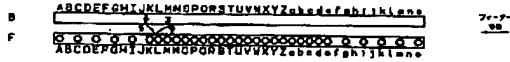
【図205】



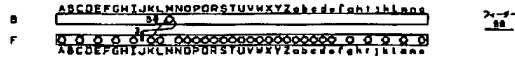
【図208】



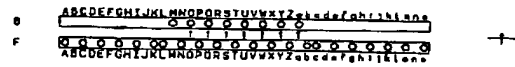
【図206】



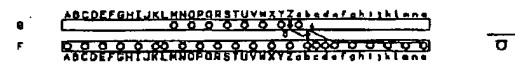
【図209】



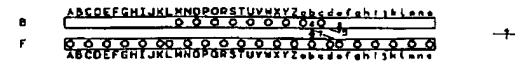
【図211】



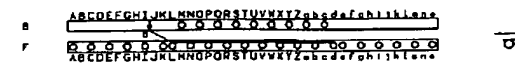
【図213】



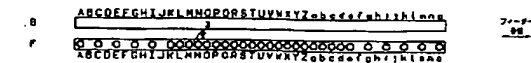
【図215】



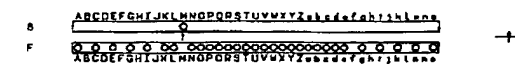
【図217】



【図219】



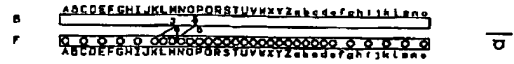
【図221】



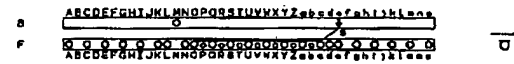
【図225】



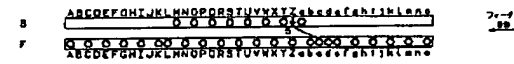
【図207】



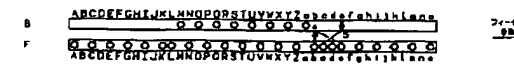
【図210】



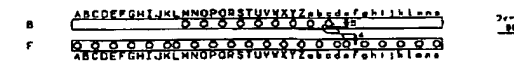
【図212】



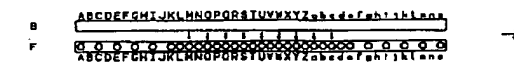
【図214】



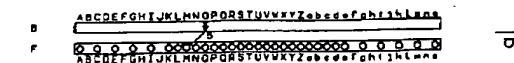
【図216】



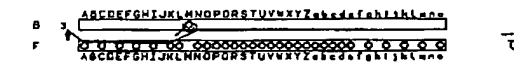
【図218】



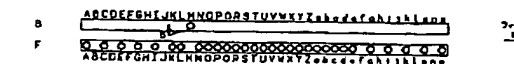
【図220】



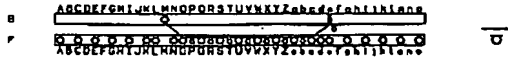
【図222】



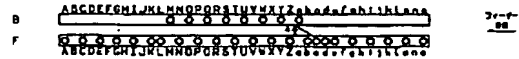
【図223】



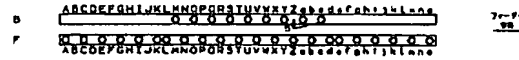
【図224】



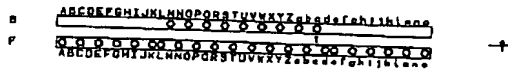
【図226】



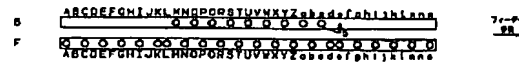
【図228】



【図227】



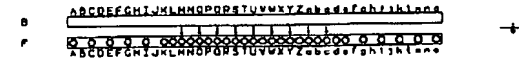
【図230】



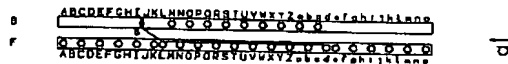
【図229】



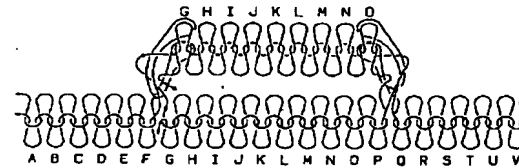
【図232】



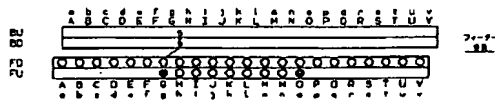
【図231】



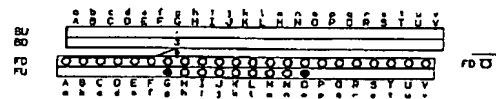
【図233】



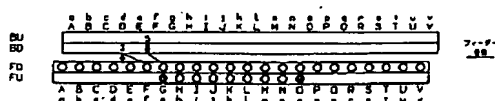
【図234】



【図235】



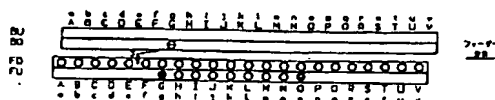
【図236】



【図237】



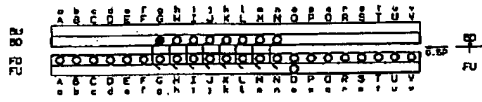
【図238】



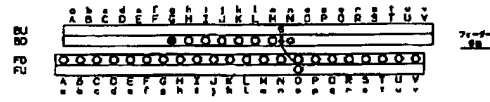
【図239】



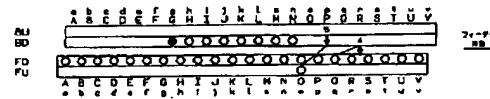
【図240】



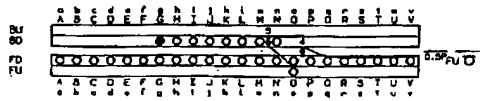
【図241】



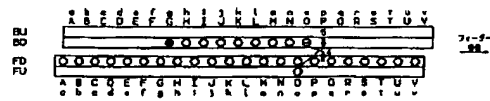
【図243】



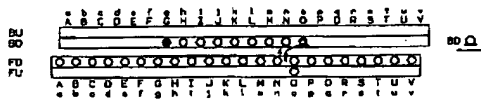
【図242】



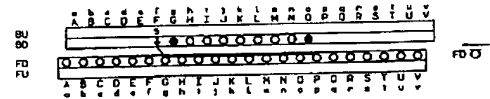
【図245】



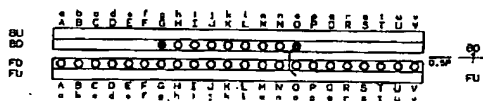
【図244】



【図247】



【図246】



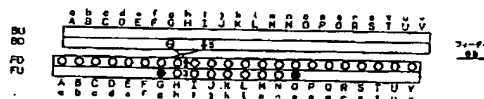
【図249】



【図248】



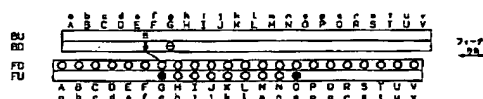
【図250】



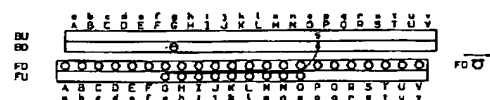
【図251】



【図252】



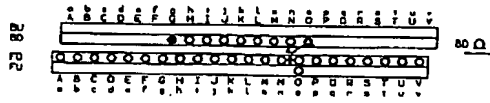
【図253】



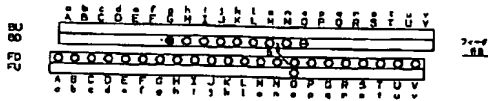
【図254】



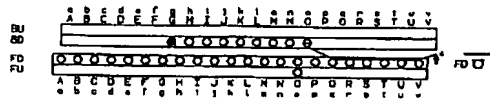
【図255】



【図256】



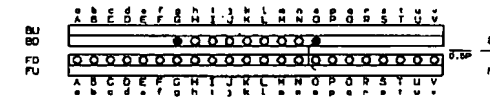
【図257】



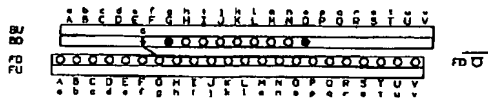
【図258】



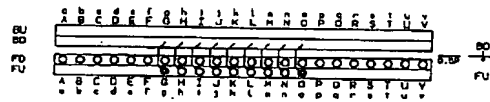
【図259】



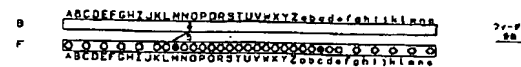
【図260】



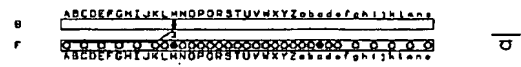
【図261】



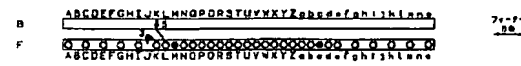
【図262】



【図263】



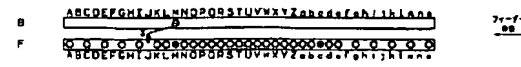
【図264】



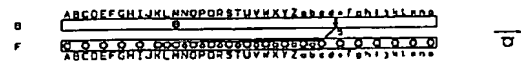
【図265】



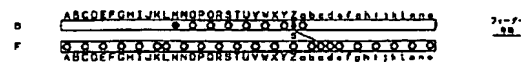
【図266】



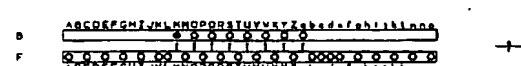
【図267】



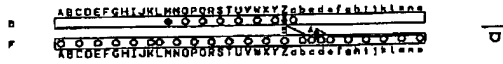
【図269】



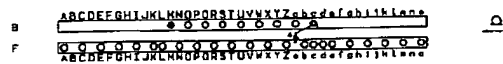
【図268】



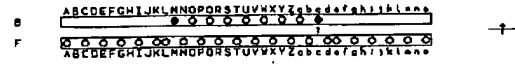
【図270】



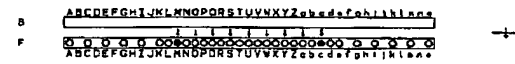
【図272】



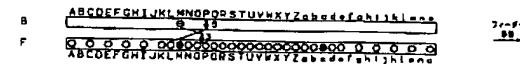
【図274】



【図276】



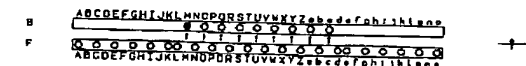
【図278】



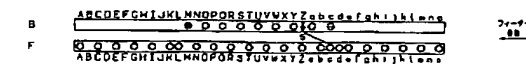
【図280】



【図282】



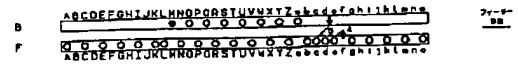
【図284】



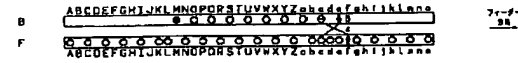
【図287】



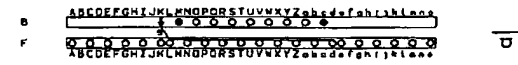
【図271】



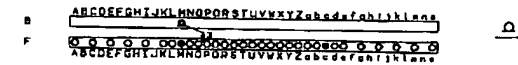
【図273】



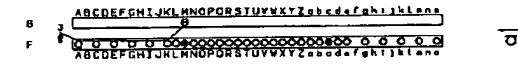
【図275】



【図277】



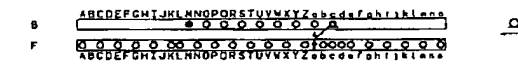
【図279】



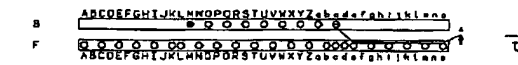
【図281】



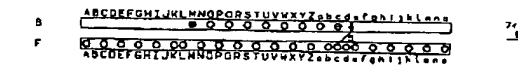
【図283】



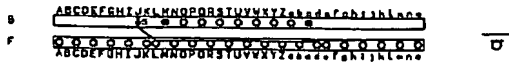
【図285】



【図286】



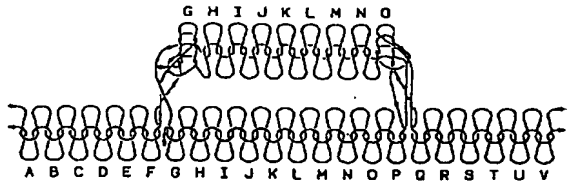
【図288】



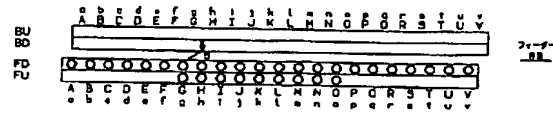
【図289】



【図290】



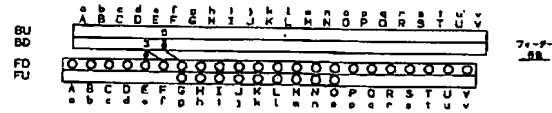
【図291】



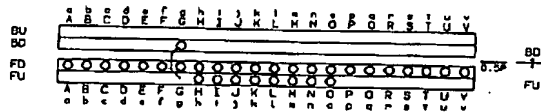
【図292】



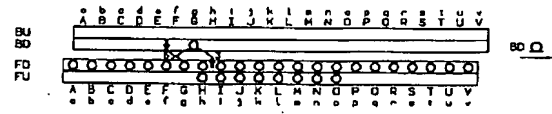
【図293】



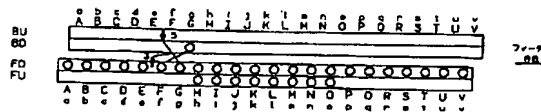
【図294】



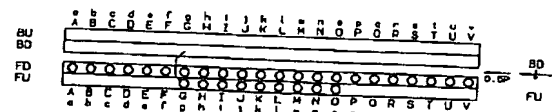
【図295】



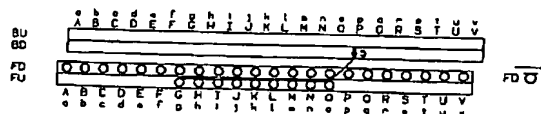
【図296】



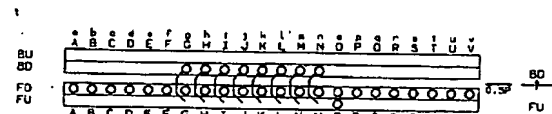
【図297】



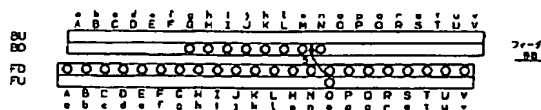
【図298】



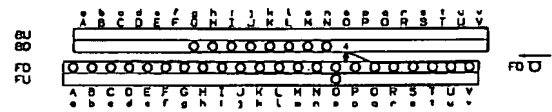
【図299】



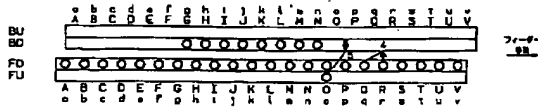
【図300】



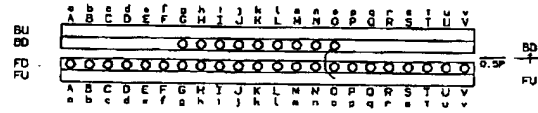
【図301】



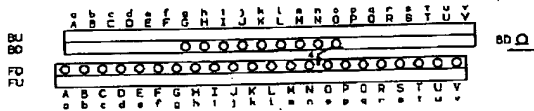
【図302】



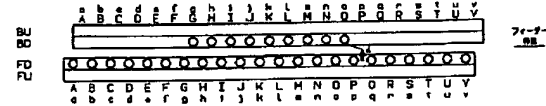
【図303】



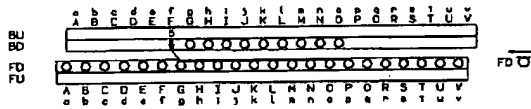
【図304】



【図305】



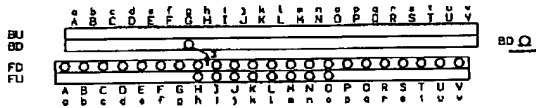
【図306】



【図307】



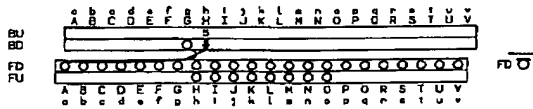
【図308】



【図309】



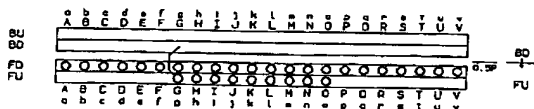
【図310】



【図311】



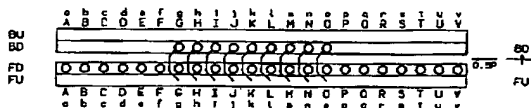
【図312】



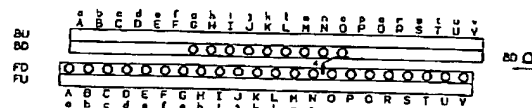
【図313】



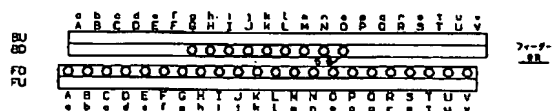
【図314】



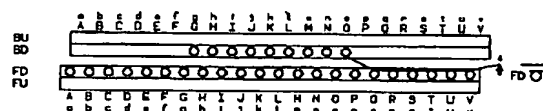
【図315】



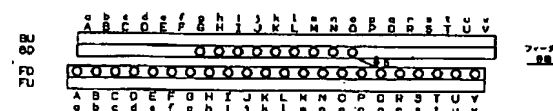
【図316】



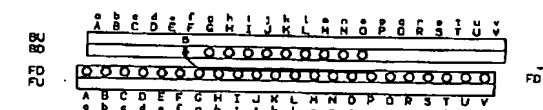
【図317】



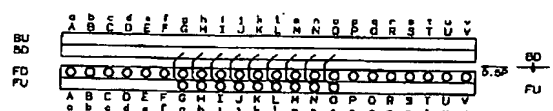
【図318】



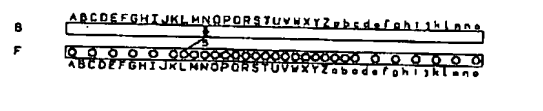
【図319】



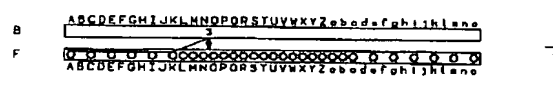
【図320】



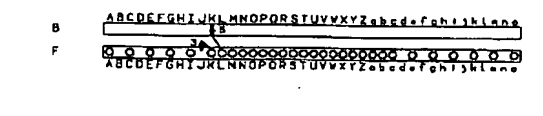
【図321】



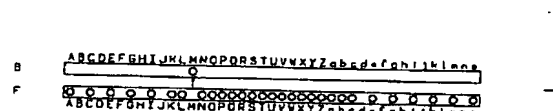
【図322】



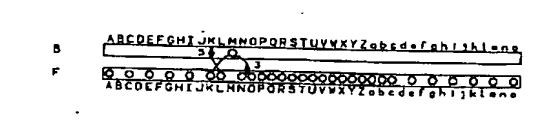
【図323】



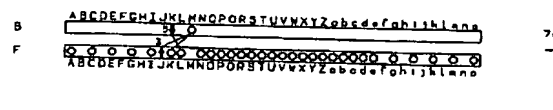
【図324】



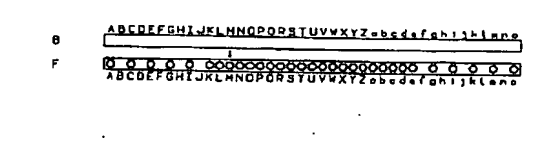
【図325】



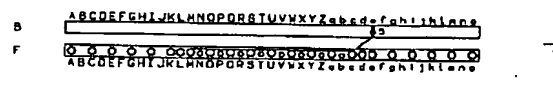
【図326】



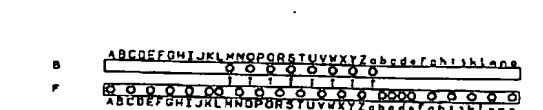
【図327】



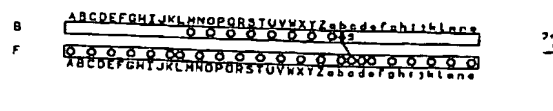
【図328】



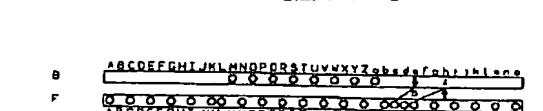
【図329】



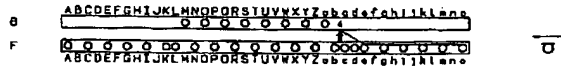
【図330】



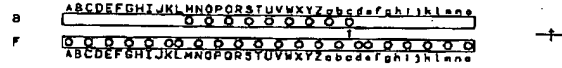
【図332】



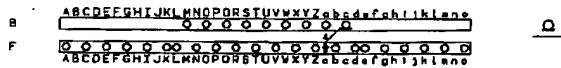
【図331】



【図333】



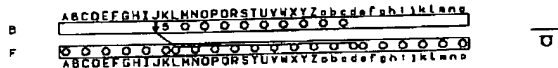
【図334】



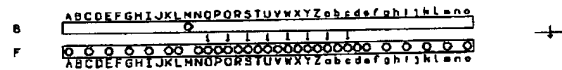
【図335】



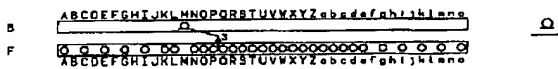
【図336】



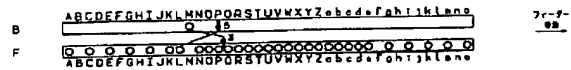
【図337】



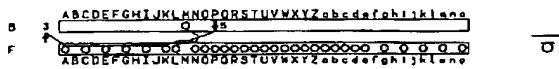
【図338】



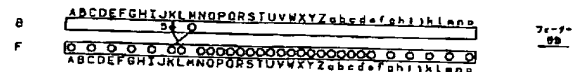
【図339】



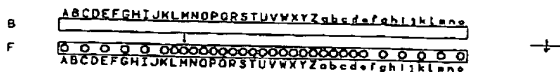
【図340】



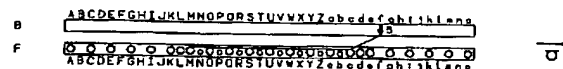
【図341】



【図342】



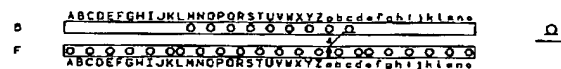
【図343】



【図344】



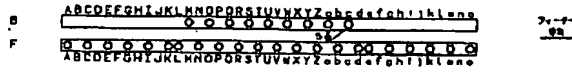
【図345】



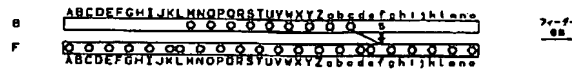
【図349】



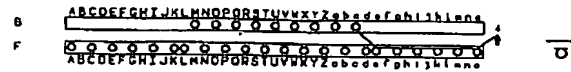
【図346】



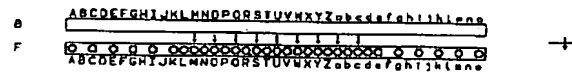
【図348】



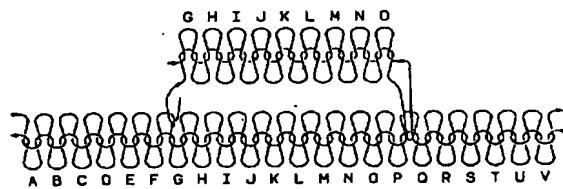
【図347】



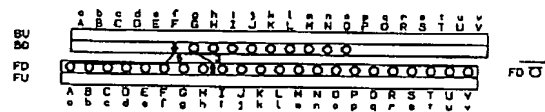
【図350】



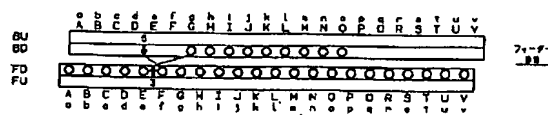
【図351】



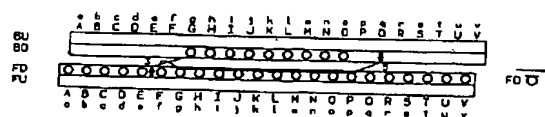
【図352】



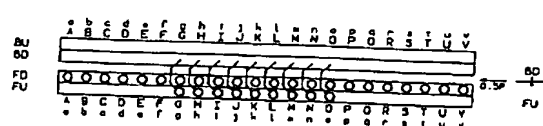
【図353】



【図354】



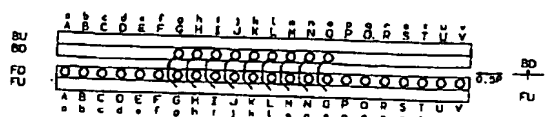
【図355】



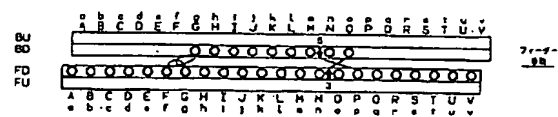
【図356】



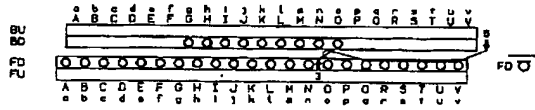
【図357】



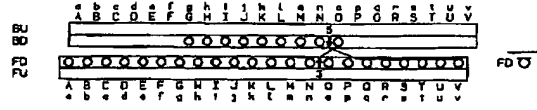
【図358】



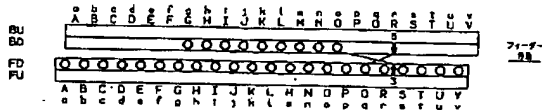
【図359】



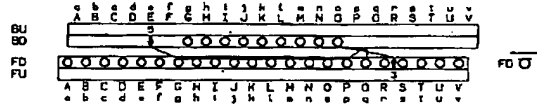
【図360】



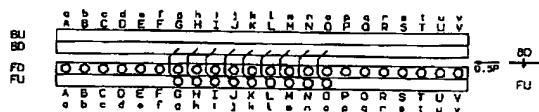
【図361】



【図362】



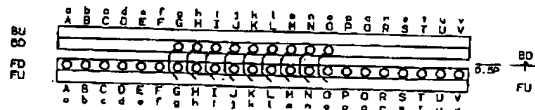
【図363】



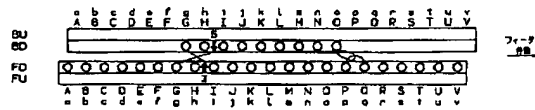
【図364】



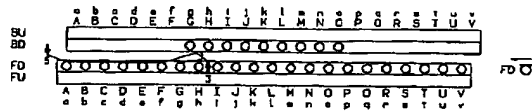
【図365】



【図366】



【図367】



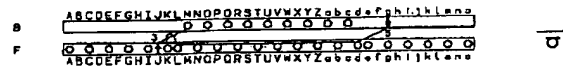
【図368】



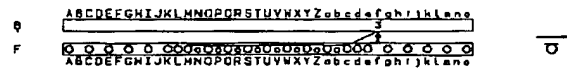
【図369】



【図370】



【図372】



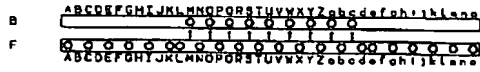
【図371】



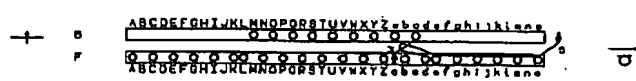
【図374】



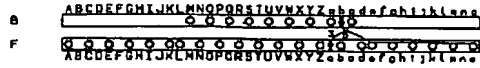
【図373】



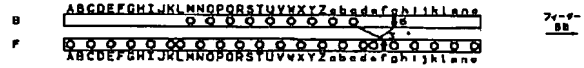
【図375】



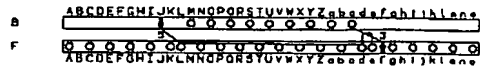
【図376】



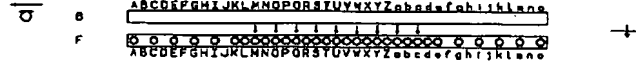
【図377】



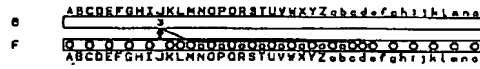
【図378】



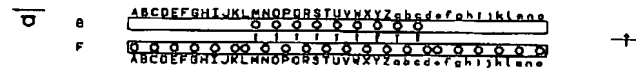
【図379】



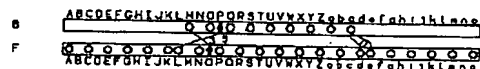
【図380】



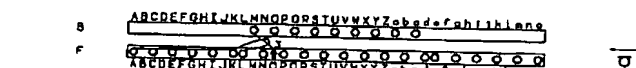
【図381】



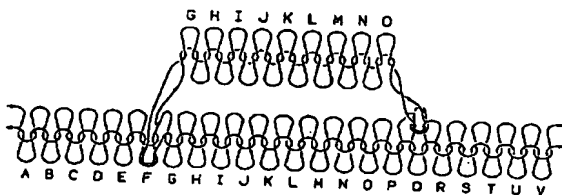
【図382】



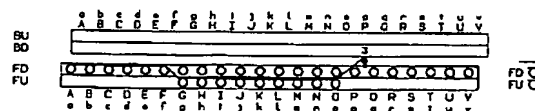
【図383】



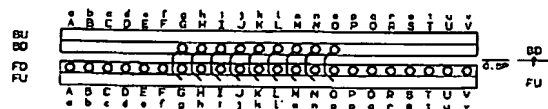
【図384】



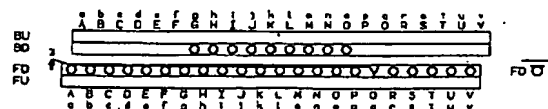
【図385】



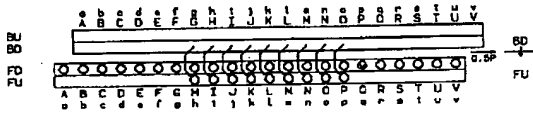
【図386】



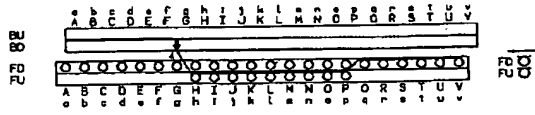
【図387】



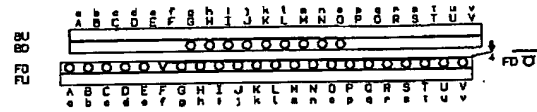
【図388】



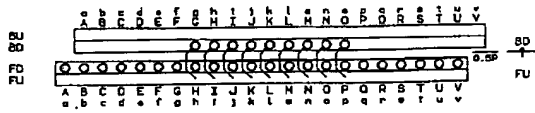
【図389】



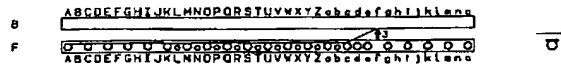
【図391】



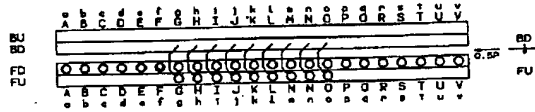
【図390】



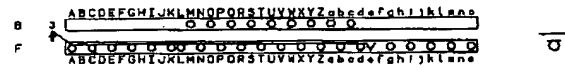
【図393】



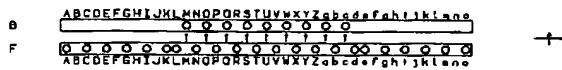
【図392】



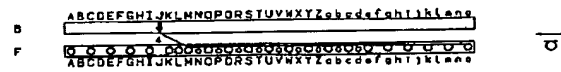
【図395】



【図394】



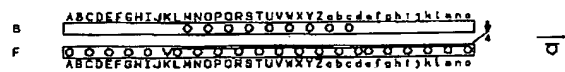
【図397】



【図396】



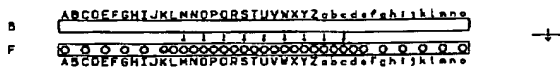
【図399】



【図398】



【図400】



【手続補正書】

【提出日】平成5年3月26日

【手続補正1】

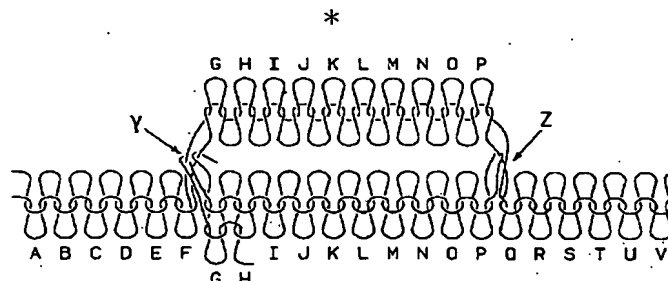
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

* 【補正方法】変更

【補正内容】

【図2】



【手続補正書】

【提出日】平成5年3月26日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項5

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項5】ポケット側方部のベース編地部とポケット編地部との連結をニットループにより形成したことを特徴とする請求項1に記載の貼付け型ポケットを有する編地の編成方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正内容】

【0016】次に、図9でフィーダー3及びフィーダー5が左方に移動されてそれぞれの給糸がクロスした状態にされた後、図10でフィーダー3が右方に移動され、次いで図11でフィーダー5が右方に移動される。図12では前方で下側に配設された針床FDの編針I及びNに掛止されているループが後方で下側に配設された針床BDの編針I及びNに割って掛止する“割り増やし”が行われ、図13で針床FDの編針N～Iにフィーダー5からの給糸によりループが形成された後、図14で針床BDの編針I～Nに掛止しているループが前方で上側に配設された針床FUの編針i～nに移される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正内容】

【0022】図45で針床FUの編針g～pに掛止されているループを針床BDの編針G～Pに移す。この図32から図45までの編成コースを適宜繰り返すことによ

りポケット2のストレート部分が編成されるのであるが、このポケット2のストレート部分の両側縁部分は図2のY及びZで示すように前身頃編地部分7に編糸同士が交差した状態で連結されるのである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正内容】

【0030】しかるのち、図87で後方の針床BU、BDを右方に1ピッチラッキングさせてから、針床BDの編針G～Pに掛止されたループを針床FDの編針G～Pに移した後、図88でフィーダー3で針床BDの編針V～Aに給糸してループを形成すると、形成されたポケット2の口部のリブ編みの両端縁部分は図58、図67で示すように身頃部分の編地に編糸同士が絡んで連結された状態に編成されるのである。以後、この図88を適宜繰り返して前身頃編地部分7が形成されるのである。こうして編成されたカーディガンの前身頃編地部分7には下方及び両側縁部分が前身頃編地部分7の編糸に絡んで連結され、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃編地部分7の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付け型ポケット2特有の盛り上がり富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正内容】

【0044】〔実施例5〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1と同様に、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編機を用い、図233で示すよ

うなポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の連結をニットによる連結で形成するようにした貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。そして、図234乃至図261までは上記実施例1における貼付け型ポケットを有する編地の編成方法の編成コースの内、変更する部分のみを示す。此处で、図234乃至図261で編成されるポケット2のストレート部分のループの数が実施例1に於ける図32乃至図45に示されるループの数と相違するが、これは当該実施例に使用した“四枚ニードルベッド”の横編機がその前方のニードルベッドと後方のニードルベッドとを0.5ピッチずらしで設けられたものを使用しているからであって、それ以外は上記実施例1と同じである。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正内容】

【0046】図245でフィーダー4を右方に移動させてフィーダー5との給糸がクロスした状態にし、図246で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床FUの編針oのループを針床BDの編針Oに移して重ねると、ポケット2の右側縁部分は前身頃7の編地に絡んだ状態になる。図247で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、フィーダー5から針床FDの編針P～Gに給糸してループを形成し、図248では後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチ移動させてから針床BDの編針G～Oに掛止されているループを針床FUの編針g～oに移す。図249で空針となっている針床BDの編針Gにフィーダー3で給糸してループを形成し、図250でフィーダー5を右方に移動させるとフィーダー3とフィーダー5とからの給糸はクロスした状態になり、図251でフィーダー3から針床FDの編針F～Aに給糸してループを形成し、図252でフィーダー5を左方に移動させる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正内容】

【0052】〔実施例7〕此の実施例に斯かる貼付け型ポケットを有する編成方法は、上記実施例1と同様に、上面に夫々多数の編針を進退摺動可能に収納した針床をハの字型に対峙させ、これを上下に配設させた所謂“四枚ニードルベッド”の横編機を用い、図290で示すようなポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分の連結をニットによる連結で形成するようにした貼付け型ポケットを有する編地の編成方法を示すものである。そして、図291乃至図320までは上記実施例1における貼付

け型ポケットを有する編地の編成方法の編成コースの内、変更する部分のみを示す。此处で、図291乃至図320で編成されるポケット2のストレート部分のループの数が実施例1に於ける図32乃至図45に示されるループの数と相違するが、これは当該実施例に使用した“四枚ニードルベッド”の横編機がその前方のニードルベッドと後方のニードルベッドとを0.5ピッチずらしで設けられたものを使用しているからであって、それ以外は上記実施例1と同じである。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正内容】

【0053】即ち、図291でフィーダー5を右方に移動させ、図292で針床FDの編針A～Fにフィーダー3から給糸しループを形成するとともに、図293でフィーダー3及びフィーダー5を左方に移動させる。図294で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針gのループを針床BDの編針Gに移し、図295で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、フィーダー3で針床BDの編針Gに給糸してループを形成する。図296でフィーダー3を左方に移動させ、図297で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせた後、針床BDの編針Gのループを針床FUの編針gに移す。図298では後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、フィーダー5から針床FUの編針g～oに給糸してループを形成する。図299で後方の針床BU、BDを左方に0.5ピッチラッキングさせてから針床FUの編針g～nのループを針床BDの編針G～Nに移し、図300で後方の針床BU、BDを右方に0.5ピッチラッキングさせて戻し、フィーダー5を左方に移動させる。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正内容】

【0056】以後この図291から図320までの編成コースが繰り返されてポケット2のストレート部分が編成されるのである。こうして編成されたポケット2の両側縁部分と前身頃7の編地との連結は図290に示すように編込みにより連結された状態となるとともに、編地は各フィーダーから供給された編糸による縦筋の模様、所謂“インターシャ柄”になる。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正内容】

【0059】そして、具体的には図321は上記実施例7における図291に対応し、図322から図350までは夫々実施例7における図292から図320迄の各編成コースに順次対応し、形成されるポケット2も上記実施例7と同様に、ポケット2の両側縁部分と前身頃編地部分7との連結は図290に示すようにニットで連結された状態で、而もポケット部分の編地で隠れる前身頃の編地部分の編み組織が表地に形成されるとともに、貼付型ポケット特有の盛り上がりに富んだ状態のポケットが形成されるのである。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正内容】

【0063】以後この図352から図367までの編成コースが繰り返されてポケット2のストレート部分が編成されるのである。こうして編成されたポケット2の両側縁部分と前身頃編地部分7との連結は図351に示すようにポケットの底部及び両端縁部分が身頃部分を編糸同士で連結した状態となる。

THIS PAGE BLANK (USPTO)